

令和元年度上期（4月～9月）

評価区分	今回評価結果
A：順調に進んでいる。	39事業
B：おおむね進んでいる。	25事業
C：進捗が遅れている。	1事業
D：取組内容の見直しが必要。	0事業

上士幌町総合戦略施策検証シート

（令和元年10月1日現在）

1	地場産業で地域の活力を生み出すまち	・・・	P 1
2	子育て・教育の充実したまち	・・・	P 8
3	健康で安心して暮らせるまち	・・・	P 20
4	移住定住による人口減少をくい止めるまち	・・・	P 26
5	小さな拠点形成を目指すまち	・・・	P 30
	プラス・ワン 上士幌町創生包括プロジェクト 上士幌版生涯活躍のまち	・・・	P 33

1 地場産業で地域の活力を生み出すまち

数値目標	基準値	目標値 (H31まで5年間)	達成度 (R元上期)
雇用充足	59人 (H27調査)	59人	
新規雇用創出人数	—	30人	32人 / 106.7%

◇移住施策と連携した地場産業の人材不足解消

KPI

無料職業紹介所の相談件数	300件	達成度 (R元上期)	375件 / 125.0%
--------------	------	------------	---------------

実施予定事業	事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇無料職業紹介所の開設 雇用確保への対策として、町内の雇用情報とよりまめて広く発信。移住・定住の流れを生み出す可能性を高める	相談件数 300件	達成度 (R元上期) 375件 (求人199 求職176) 125.0% 採用 5名	・WEBサイト等による情報発信を随時行うとともに、電話及びメールによる求人・求職者とのジョブマッチングを実施。 今後の対応 ・「生涯活躍のまちかみしほろ」との連携を密にして職業紹介業務を推進する。	A	(実績) ・平成30年度より「生涯活躍のまちかみしほろ」においても「無料職業紹介業務」が許可された。町との業務連携により、今まで以上に情報共有が図られ、採用者も増加している。 (課題) ・職種等によっては、求職相談数が少ないため、必要な求人を事業所に紹介出来ていない。	町民課
◇重点道の駅「仮称バルーン」整備	新規雇用者数 15人	—	・道の駅 かみしほろの建設 ・ナイタイ高原牧場「ナイタイテラス」営業及び周辺整備 ・運営主体の取り組み	A	(実績) ・道の駅は、30年度に実施設計が完了し、今年度建設工事中である。施設名称は「道の駅 かみしほろ」と定め、国土交通省への道の駅登録申請を行う事前協議中である。令和2年5月28日オープン宣言の宣伝活動を行うこととしている。前日の27日にセレモニーを実施予定。 ・ナイタイテラスは、予定通り4月27日先行オープン、6月3日全面オープンで営業を実施している。入込数は9月末現在、約12万人に上っている。旧レストハウス解体工事を発注しており年内に完了する。跡地を含めた周辺整備設計を行っており、次年度整備予定である。 ・「上士幌町観光地域商社 (株)karach (仮称)」がナイタイテラスの指定管理者として営業を行っている。10月にはナイトツアーを4日間開催予定である。電力小売りでは、5月に一般家庭を対象とした説明会を開催している。 (課題) ・施設スタッフの人材確保が大きな課題となっている。 ・商品開発を進めるとともに、自立した経営を目指して推進する必要がある。	商工観光課

◇農林業の活力向上

KPI

農業生産法人数 (H26年4月現在19件)	新規2件	達成度 (R元上期)	5件 / 250.0%
新規就農・新規雇用の青年等	10人	達成度 (R元上期)	3人 / 30.0%
青年等就農計画 (平成27年4月現在2件)	新規3件	達成度 (R元上期)	2件 / 66.7%
農業後継者の有配偶率	増加	達成度 (R元上期)	17件 (R元上期までの参考数値)
上土幌町農工商連携補助事業によって商品化した件数	2件/年	達成度 (R元上期)	0件 / 00.0%
バイオマスエネルギー地域利活用 (農業：家畜糞尿、林業：木質チップ)	新規3件	達成度 (R元上期)	3件 / 100.0%

実施予定事業	事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇新規就農対策事業 本町の主要産業である農業の新規就農対策を推進し、農家戸数と農業者の確保を図る	新規就農人数 3件5人	新規就農人数 2件3人	・新規就農に対する相談について随時対応した。	B	(実績) ・1名が経営譲渡による新規就農に向け研修を行っている。	農林課
◇家畜糞尿処理バイオガスプラントの導入による家畜糞尿処理対策への支援 ◇畜産業の大型化に伴う家畜糞尿処理対策と発生するバイオガスエネルギーの利活用	バイオガスプラント整備 3か所に対する支援 新規雇用人数10名	バイオガスプラント整備済 3か所 新規雇用人数10名	・バイオガスの利活用に向けた調査、研究に基づき導管敷設工事を実施した。	A	(実績) ・バイオガスの導管敷設による遠隔地利用により、エネルギーの利活用が図られる。	農林課
◇農業におけるアウトソーシング化への支援 地域農業の効率性・収益性向上と労働力の軽減	新規雇育事業への支援 新規雇用人数 6名		・畜産クラスター計画の変更承認、補助事業の採択により、牛舎の建設工事に着手した。	B	(実績) ・施設の建設及び運営により、アウトソーシング化が図られる。	農林課
◇家庭形成に向けた出会いの機会創出支援 (農業後継者)			・北海道十勝農業青年との交流会 (皆更・鹿追・土幌・上土幌の4町実行委員会主催による本州女性との交流会) の開催 (R2年2月22~24日で開催予定) ・上土幌町農業青年婚活交流会 (JA青年部と札幌近郊の女性との交流会) の開催 (12月6日予定) ・上土幌町農業青年婚活交流会その1 (JA青年部と十勝管内の女性との交流会) の開催 (1月12日予定) ・上土幌町農業青年婚活交流会その2 (JA青年部と十勝管内の女性との交流会) の開催 (1月13日予定) ・農業青年の婚活交流事業である「ガ子コン(民間事業者主催)」への参加 (年間3回開催)	B	(課題) ・参加する青年が近年少ない状況にあるが、JA青年部や関係機関とも密接に連携し、交流機会の拡大と参加者確保に努める。	農業委員会事務局
◇森林整備計画の推進			・森林経営計画に沿った森林整備の推進	B	(実績) ・適正な森林整備を実施している。	農林課

◇建設業の活力向上

KPI

建設業における求人

充足

達成度 (R元上期)

35名 (雇用者数)

実施予定事業	事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇社会資本整備の充実		道路 40% 歩道 70% 排水路 80% 東部地区配水管移設 工事 HPE φ75 L=560 m、PP φ50 L=282m 進捗状況 100%	・道路改良舗装事業 (本町西仲通線、電源開発西側道路) ・歩道整備事業 (若草南団地5号線) ・排水路整備事業 (豊岡45号) ・水道施設改良事業 (東部地区配水管移設工事) (今後の対応) 水道施設改良事業については、継続して事業を実施する。	A	(実績) ・道路及び排水路整備事業について今年度予定箇所について現在実施中。 水道管移設工事については、計画通り民有地に布設された水道管を道路用地へ移設することが出来た。	建設課
◇インフラの維持管理事業の推進		橋梁修繕 60% 橋梁点検 100% 舗装補修 100% 側溝補修 0% 東部地区配水管更新 工事 HPE φ75 L=270 m、PP φ25 L=300m、 PP φ50~20 L=1,060 m、給水管接続8箇所 進捗状況 100%	・橋梁長寿命化修繕事業 (橋内橋、共和橋、清進1号橋) ・橋梁定期点検事業 (24橋) ・道路舗装補修事業 (上首更地区道路舗装補修工事、萩ヶ岡・北居辺地区道路舗装補修工事、北門・東居辺地区道路舗装補修工事) ・道路側溝補修事業 (勢多環状線) ・町道等維持管理事業 (機械除草、路面整正、道路側溝等清掃) ・公共下水道事業 (自動スクリーン更新工事) ・水道施設事業 (東部地区配水管更新工事) (今後の対応) 水道施設事業については、引き続き老朽管を計画的に更新する。	B	(実績) ・橋梁長寿命化計画に基づき修繕事業実施中 ・水道施設事業については、老朽化した水道管を計画通りに更新することが出来た。 (課題) ・下水道施設は第2期長寿命化計画に基づく設備機器の更新を計画通り実施している。(令和2年3月完成予定)	建設課
◇建設業における人材育成に対する支援			・季節労働者の失業期間中の就労対策として、道路側溝、明渠排水路等の雑木処理作業を実施	B	(実績) ・季節労働者の就労対策を実施 雇用者数 35名 作業日数 9日間 (課題) ・建設業従事者の通年雇用化には、なかなか結びつかない。	町民課

◇商工業の活力向上

KPI

空き店舗等における新規開業や新たな利用

新規商品開発件数 (H26 4件)

5件

延べ20件

達成度 (R元上期) 1件 / 20.0%

達成度 (R元上期) 10件 / 50.0%

実施予定事業	事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇商工業者に対する資金支援			<ul style="list-style-type: none"> ・上土曜町中小企業融資条件に基づき、資金支援を行う。 	A	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上期 (4月-9月) 利用実績 9件、57,970千円の融資。(運転資金3件、設備投資6件) ・前年同期実績 (4件、45,230千円) 比較で、件数及び融資額は伸びている。 ・今年度から、きめ細やかな資金融資のため小口融資制度を施行している。上期で4件の利用実績となっていることが増の要因。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工業者の経営安定化のため継続的に支援していく必要がある。 	商工観光課
◇商店街活性化支援			<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の活性化を図るため「商店街賑わい事業」へ支援する。 ・商店街等キャッシュレス化事業へ支援する。 	A	<p>(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中元売り出し事業 (10%還元) 実績 売出期間：7月00日～8月3日 (7/30予定数終了) 売上総額：50,227千円 (目標額 50,000千円) 交換者数：946人 <ul style="list-style-type: none"> ・現行のバルーンスタンプカードをIC付きカード(チャージ式・キャッシュレス化)に変更。消費税率引上げに対する還元ポイント(5%)に対応。本事業は、バルーンスタンプ会協同組合が事業主体となり、国補助を受け、町は補助残を支援する。 <p>[今後の予定事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳末売り出し事業 (10%還元)、新春大売出し事業 (抽選会)、新春運だめしサイコロゲーム事業 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「商店街賑わい事業」の内容の工夫を図りつつ、継続的に支援する必要がある。 ・キャッシュレス化事業は、国補助決定 	商工観光課

<p>◇起業支援及び空き店舗対策の推進</p>		<p>・起業希望者に対して、創業支援促進事業や町中小企業融資制度により支援を行う。 ・「ふるさと起業家支援プロジェクト補助金」を平成30年度から開始している。対象者にはふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングによる「起業家支援プロジェクト」を実施する。</p>	<p>A</p>	<p>企画財政課 商工観光課</p>
<p>◇商工業者の後継者育成・雇用確保</p>		<p>・創業支援促進事業や町中小企業融資制度により資金支援を実施し雇用確保を図る。 ・平成30年度商工会策定の「商店街振興計画」にある事業承継対策について商工会と連携して支援内容の検討を行う。</p>	<p>A</p>	<p>商工観光課</p>
<p>◇地域資源を活用した商品開発</p>		<p>・「道の駅」「ナイタイテラス」等で販売する商品、サービスの開発を行う。 ・地域資源を活用した新商品の開発を促す農林商工等連携・ビジネス創出促進事業により、事業者への支援を行う。</p>	<p>B</p>	<p>商工観光課</p>

◇観光産業の活力向上

KPI

観光入込数：H26年360千人		415千人（15%増）		達成度（R元上期）		未集計 / 未集計	
実施予定事業	事業目標	達成度（R元上期）	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等	
<p>◇インターネット不感地帯の解消促進</p> <p>・インバウンド等観光客誘客に求められる高度情報整備</p>			<p>・三国峠休憩所が携帯電話エリアとなったことから、簡易的なWi-Fi環境を整える。また、ぬかびら温泉郷の温泉公園もWi-Fi環境を整える。</p> <p>・光回線整備に関わる新たな補助事業「高度無線環境整備推進事業」の交付決定を受け、同事業を実施中。</p> <p>（今後の対応）</p> <p>・光回線敷設工事を年度内に完了できるように実施する。</p>	A	<p>（実績）</p> <p>・三国峠休憩所、温泉公園のWi-Fi整備を行った。</p> <p>・道の駅では停電時でもWi-Fi利用できる設計としており建設中。</p> <p>・農村地域における光回線敷設に向けて補助事業「高度無線環境整備推進事業」の内示を4月19日に受け、交付申請を行い、8月9日に交付決定を受けた。同事業の議決を9月4日に受けた後、9月5日に契約締結を行い、現在実施中である。</p> <p>（課題）</p> <p>・交付決定が想定よりも大幅に遅れたため、スケジュールが非常にタイトになっている。事業者と連絡を密にとり、年度内に完了するよう事業を実施している。</p>	<p>商工観光課</p> <p>企画財政課</p>	
<p>◇インバウンドを含む観光客誘致</p> <p>・外国人観光客の受け入れ環境整備、効果的な観光 프로모ーションの展開、情報発信の強化</p> <p>・滞在・体験型観光プログラムの開発、担い手となる人材の育成</p> <p>・老朽化した観光施設等のユニバーサルデザインに配慮した再整備</p>	<p>観光客入り込み数</p> <p>360千人（H26）→</p> <p>415千人（H31）</p> <p>15%増</p>	<p>平成30年度末</p> <p>令和元年8月道発表</p> <p>439,4千人</p> <p>前年度比 100.1%</p> <p>（平成29年度末）</p> <p>439,0千人</p> <p>※令和元年度上期未発表</p>	<p>・インバウンドを含む観光客誘致（プロモーション、体験観光）。</p> <p>・上士幌町観光地域高社が観光庁「日本版DMO候補法人」の登録を目指す。</p>	A	<p>（実績）</p> <p>・北十勝4町が連携して、台湾（エージェント訪問）プロモーション活動を実施。</p> <p>・プライムロードひがし北海道十勝地域部会（1市4町）に参画し、訪日外国人周遊促進事業を実施。（スイーツ巡り、2次交通クーポン事業など）</p> <p>・インバウンド向け観光パンフレット（4言語）を作成し、観光拠点への配置、イベントやプロモーション活動で利用。</p> <p>・レンタサイクル実施（利用者66人）。</p> <p>・Marchの日本版DMO候補法人登録は8月7日付けで登録完了となった。</p> <p>（課題）</p> <p>・観光基本計画の実践・推進が必要となっている。</p>	<p>商工観光課</p>	

◇企業誘致

KPI

新規雇用者数

30人増加

達成度(R元上期)

32人 / 106.7%

実施予定事業	事業目標	達成度(R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇企業誘致対策事業	新規雇用者数 30人	32人	<ul style="list-style-type: none"> 三菱総合研究所が主催する丸の内プラチナ大学を受講する企業人等を受け入れる「逆参勤交代モデルツアー」の実施。 企業等とのネットワークづくりの拠点とするため、4月からシェアオフィス「WeWork」に入居。 (今後の対応) 今年度中に整備される「上土根シェアオフィス」の利活用促進も含め、WeWork 入居企業へのPR、誘致策を検討する。 	A	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方での期間限定型リモートワークを通じて、働き方改革と地方創生の同時実現を目指すためのノウハウが蓄積された。また、廃校の活用方法など町の課題解決に繋がるプランの提案に参加者によりなされた。 WeWork への入居（神保町オフィス）により、情報発信が可能なメンバーズネットワークに加入した。また、WeWork のオープンスペースを活用し、入居企業等とのコラボイベントを実施した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> WeWork に一定時間滞在し、入居企業との交流を深める必要がある。(地域おこし協力隊にて人材募集中) 	企画財政課

◇地産品の消費拡大

KPI

特産品のレシビ開発

30品

達成度(R元上期)

35品 / 116.7%

実施予定事業	事業目標	達成度(R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇ふるさと納税特産品消費拡大プロモーション	レシビ開発 30品	35品	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、新たなレシビ開発を進める。 	A	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税特産品を使用したレシビ35品を料理レシビのコミュニティウェブサイトのクックパットに掲載した。 	企画財政課

2 子育て・教育の充実したまち

数値目標	基準値	目標値 (H31まで5年間)	達成度 (R元上期)
合計特殊出生率	1.61	1.90	H25~29の数値に基づきH31公表予定
学力・体力・体験		北海道トップレベル	

◇子育て世帯における経済的支援の一体的実施

KPI

子育てしやすいと感じる人の割合47.1% (H27アンケート調査)

増加

達成度 (R元上期)

「第2期上士幌町子ども・子育て支援事業計画」策定に係るニーズ調査結果より(平成30年度実施 前回調査は平成25年度実施)
 ・就学前児童の保護者
 ①子育てしやすいと感じる 32.3% (前回14.8%)
 ②どちらかといえば、子育てしやすいと感じる 49.2% (前回48.1%)
 ①+② 81.5% (前回62.9%) 前回対比130%
 ・小学生児童の保護者
 ①子育てしやすいと感じる 31.7% (前回10.5%)
 ②どちらかといえば、子育てしやすいと感じる 44.4% (前回52.6%)
 ①+② 76.1% (前回63.1%) 前回対比121%

達成度 (R元上期)

維持

維持

認定こども園における待機人数 (H27ゼロ)

実施予定事業	事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇高校生世代までの医療費の無料化			<ul style="list-style-type: none"> 子ども医療費助成事業受給者数 656名 (うち高校生88名) 子ども医療費助成額 10,686千円 (うち高校生836千円) 	A	(実績) ・子育て世帯への経済支援により子育ての不安解消につながった。	保健福祉課
◇教育に係る保護者負担の軽減	保育料無料化	保育料無料化実施	<ul style="list-style-type: none"> 認定こども園の保育料無料化の実施。 		(実績) ・児童数の増加に対応するため、認定こども園と山開センター内分室の備品類を整備すると共に、午睡室や遊戯ホールの効果的な活用に努め、保育環境の改善を図った。	幼児教育課
○幼児に係る保育・教育費の保護者負担の軽減 ・2km以上の遠距離通園者への補助			<ul style="list-style-type: none"> 認定こども園までの往復の距離×2回×20円×通園日数分の補助を実施 交付人数 33名 			
○児童・生徒に係る教育費の保護者負担の軽減 ・就学援助 ・補助教材補助	修学旅行経費の助成	修学旅行経費の助成実施	<ul style="list-style-type: none"> 就学援助(学用品費・給食費・新入学児童生徒学用品費・PTA会費・体育実技費・修学旅行費等)の実施 交付人数 小学生44名 中学生20名 補助教材補助 小中学校児童生徒一人あたり2,000円分を各学校に配当 小学生220名 中学校141名 修学旅行経費の約1/2を助成 小学生 11,000円×31名 	A	(実績) ・就学援助や補助教材補助、修学旅行経費助成により、保護者の負担軽減を図った。	教育推進課

				中学生 33,000円×50名 今後の対応 ・就学援助(新入学児童生徒学用品費)の新入学児童生徒への入学前年交付申請に基づき12月支給 ・(想定)新築住宅、中古住宅 23,000千円						
◇子育て支援・少子化対策建設助成金交付事業								B	(実績) ・新築住宅 5件 8,500千円 対象子ども 8名 ・中古住宅 2件 2,000千円 対象子ども 4名	建設課

◇出産や子育てにおける安心の確保

KPI

育児短時間勤務を導入している事業所数

増加

達成度(R元上期)

21件(制度認知件数)

実施予定事業	事業目標	達成度(R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
育児短時間勤務の推進			<ul style="list-style-type: none"> ・「生活活躍のまかみしほろ」とも連携し、登録事業所訪問の際などを利用し、子育てに関する制度の周知に努める。 	B	(実績) ・昨年、事業所に対しアンケートを実施。制度化されている事業者は少ないが、従業員の理解・協力を得ながら、休みやすい環境づくりに努めている」との回答が多く、子育て世代の安心に繋がっていると感じた。	町民課
地域で育む子育てサロンの開設			<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園内に設置している「子育て支援センター」において、次の事業を実施 1. 親と子が安心して過ごせる居場所として、子育てに向き合うゆとりと自信を高める場の提供 ＜すくすく広場＞ 毎週水曜日 対象 0～2歳誕生日までの子どもと保護者・妊婦 ＜なかよし広場＞毎週月・木・金曜日 対象 0歳～就学前の子どもと保護者 2. 親子で取り組める製作や音楽リズム、外遊び等の提供 ＜なかよしチャレンジ＞月1回 第2木曜日 対象 0歳～就学前の子どもと保護者 3. 妊婦同士や地域との交流の場・機会の提供により母親の孤立を防ぎ、出産後の育児不安の解消を図る ＜ママーズ広場＞毎月第2・4月曜日・第3金曜日 対象 妊婦 4. 同月齢の子どもを持つ母親同士や妊婦同士の交流、子育て相談や情報提供などの機会の提供により孤立を 	B	(実績) ・保育料無料化に伴い、認定こども園に入園する児童が増加し、子育て支援センター利用者が減少傾向にあったが、広場の時間延長や事業設定等の環境改善により利用が増加した。 ・センターの魅力化と利用促進を図るため、国際交流推進員と連携し利用者以外に国語や国際交流活動に触れる機会を設けた。 ・上半期施設利用実績(延べ人数) 大人 783名(昨年同期 598名) 子ども 885名(昨年同期 691名) 計 1,668名(昨年同期 1,289名) ・認定こども園と子育て・発達支援センターや小学校との連絡・調整を担う幼児教育コーディネーターを配置した。	幼児教育課

		<p>防ぎ、育児負担の軽減を図る</p> <p><ベビーズ広場> 毎週火・木曜日 対象 0～1歳誕生日までの親子・妊婦</p> <p>5. 集団での利用が苦手な親子を対象に、個人または少人数で利用できる場の提供</p> <p><ちいさな広場> 毎週火・第1・2・4・5金曜日 対象 0歳～就学前までの子どもと保護者</p> <p>6. 育児サークルの場に職員が出向き、育児相談や遊びの提供をして、子育てを通じた仲間作りの成援をする</p> <p><子育てサークル支援> 月1回 第3火曜日</p> <p>7. 来所時及び電話により子育てに関する様々相談に対し、育児不安の解消を図る</p> <p><子育て相談> 毎週月～金曜日</p> <p>8. あそびの広場に認定こども園栄養士が出向き、子どもの食事に関する不安・疑問を軽減する</p> <p><栄養相談・栄養講話></p> <p>栄養相談2回・栄養講話1回</p> <p>9. 認定こども園の給食やおやつを試食により、乳幼児期に適した食事やおやつの特徴・量などの理解を深める</p> <p><ほろんランチ> 年3回</p> <p><ほろんおやつ> 年2回</p> <p>10. 子育てに関する知識を学び、育児不安の軽減を図る</p> <p>子育て講義の開催</p> <p><子育て講演会> 1回実施</p> <p>11. 国際交流推進員と連携し、外国語の文化や国際理解を深める機会を設ける</p> <p><メイトタイム> 月1回</p> <p>12. 未就学年齢の子どもを持つ親子に、認定こども園の雰囲気やあそび、生活などの体験をしてもらう</p> <p><認定こども園開放日></p> <p>年11回</p> <p>13. 育児疲れの解消、急病や就労形態の多様化などに伴う一時的な保育に対する需要に対応する為、一時的な保育を実施することにより児童の福祉の増進を図る</p> <p><一時保育> 月～金曜日 対象 1歳～就学前の子ども</p> <p>14. 少子化・核家族化が進む中、仕事と育児の両立の為、地域において会員同士が育児に関する相互援助活動を行う事を支援する</p> <p>・安心して子育てができる環境づくり及び児童福祉の</p>	<p>(課題)</p> <p>・保健福祉課・幼児教育課・教育推進課の横断連携を一層密にし、要支援の児童や保護者への継続した支援を充実させていく必要がある。</p>
--	--	--	---

				向上を図る ＜子育てサポート事業＞ 会員の登録制（依頼会員・協力会員・両方会員） 料金 30分300円（町より半額の助成）				
病児・病後児保育事業の検討				・町内医療関係者と連携し、管内で病児・病後児保育実施施設の視察、調査を実施し、具体的な検討を進める。	B	(実績) ・帯広市内・音更・土幌町内の病児・病後児保育園を視察、調査、検討を行った。 (課題) ・病児・病後児保育事業の実施には、施設や職員体制などの課題があり、体調不良児対応やICT活用による遠隔診療なども含め、更に調査を行い本町での実施に向け、検討を進める必要がある。	幼児教育課	

◇豊かな子育てを支える質の高い学力・体力・多様な体験機会の体系化

KPI

全国学力・運動能力、運動習慣等調査の平均記録（小学5年・中学2年実施）	北海道トップレベル	達成度（R元上期）	全国平均より上位の種目数	<table border="1"> <tr> <td>小5男</td> <td>小5女</td> <td>中2男</td> <td>中2女</td> </tr> <tr> <td>27年度 2/8</td> <td>1/8</td> <td>1/8</td> <td>1/8</td> </tr> <tr> <td>28年度 3/8</td> <td>4/8</td> <td>2/8</td> <td>3/8</td> </tr> <tr> <td>29年度 4/8</td> <td>8/8</td> <td>4/8</td> <td>3/8</td> </tr> <tr> <td>30年度 2/8</td> <td>2/8</td> <td>3/8</td> <td>1/8</td> </tr> </table>	小5男	小5女	中2男	中2女	27年度 2/8	1/8	1/8	1/8	28年度 3/8	4/8	2/8	3/8	29年度 4/8	8/8	4/8	3/8	30年度 2/8	2/8	3/8	1/8
小5男	小5女	中2男	中2女																					
27年度 2/8	1/8	1/8	1/8																					
28年度 3/8	4/8	2/8	3/8																					
29年度 4/8	8/8	4/8	3/8																					
30年度 2/8	2/8	3/8	1/8																					
全国学力・学習状況調査の平均正答率	北海道トップレベル	達成度（R元上期）	全国平均より上位の領域数	<table border="1"> <tr> <td>小6</td> <td>中3</td> <td>教科</td> </tr> <tr> <td>27年度 0/14</td> <td>1/14</td> <td>国語・算数(数学)</td> </tr> <tr> <td>28年度 10/15</td> <td>4/15</td> <td>"</td> </tr> <tr> <td>29年度 1/15</td> <td>3/16</td> <td>"</td> </tr> <tr> <td>30年度 6/19</td> <td>0/20</td> <td>国語・算数(数学)・理科</td> </tr> <tr> <td>元年度 5/8</td> <td>5/11</td> <td>国語・算数(数学) 英語(中学のみ)</td> </tr> </table>	小6	中3	教科	27年度 0/14	1/14	国語・算数(数学)	28年度 10/15	4/15	"	29年度 1/15	3/16	"	30年度 6/19	0/20	国語・算数(数学)・理科	元年度 5/8	5/11	国語・算数(数学) 英語(中学のみ)		
小6	中3	教科																						
27年度 0/14	1/14	国語・算数(数学)																						
28年度 10/15	4/15	"																						
29年度 1/15	3/16	"																						
30年度 6/19	0/20	国語・算数(数学)・理科																						
元年度 5/8	5/11	国語・算数(数学) 英語(中学のみ)																						
地域資源を生かした体験活動の推進	北海道トップレベル	達成度（R元上期）	地域資源を生かした特色ある体験活動を実施																					
地元からの上高進学率 38%（H23～27平均）	50%以上	達成度（R元上期）	26%（平成31年度入学者）																					

実施予定事業	事業目標	達成度(R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
<p>◇学力・体力・体験の北海道トップレベルを実現</p> <p>○上士幌町子ども教育ビジョンの具現化 ～【「かみしほろ学園構想」(仮称)の策定】</p> <p>○幼児から高校まで一貫性のある教育プログラムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通教材の開発、導入 ・地域総ぐるみのキャリア教育(一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な意欲・態度や能力を育ていく教育)支援 	<p>○全国学力・学習状況調査より(小学6年・中学3年実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標を持っている児童・生徒 <p>小学校 89% 中学校 68% (H22～26平均) → 100% (H31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業以外の勉強時間1時間以上の児童生徒の割合 <p>小学生 平日 43% 土日 51% (H22～26平均) → 80%以上 (H31)</p> <p>中学生 平日 57% 土日 59% (H22～26平均) → 90%以上 (H31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べている児童生徒の割合 <p>小学生 99% 中学生 93% (H23～26平均) → 100%</p> <p>維持継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の平均正答率→北海道トップレベル 	<p>18頁《別記》に記載</p>	<p>かみしほろ学園本部に3部会、1室を設け推進している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かみしほろ学園推進本部の取組 ・総会、役員会(3回)、かみしほろ学園推進本部だよりの発行(5号)、外国語・外国語活動指導者研修会(7/30)、普通教諭講習会(7/31)、かみしほろ学園研究大会(11/15予定)、教育講演会(11/15予定)、ジョイントコンサート(3/21予定)等を実施。 ・連携教育部会の取組 ①漢字検定、英語検定、数学検定の実施(各1回終了)。 ②部活動交流 <p>中学校及び上士幌高校の吹奏楽部への外部講師招聘(9回)</p> <p>少年団、中学校の卓球部への、外部講師招聘(5回)</p> <p>柔楽部や卓球部などの活動で、中学校と高校、少年団と中学校の指導者同士が連携。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修開発部会の取組 ①自己管理手帳「i Bノート」の導入と活用(認定子ども園、町内小中学校、上高へ4月配付)。 ②子育てサポートブック「アーチ」の作成と説明・配付(認定子ども園、上小新入生に配付の他、母子手帳配付に合わせて配付)。 ④芸術鑑賞会の実施(小学校9/2)。 ・教育研究・複式教育部会の取組 ①家庭学習の手引き発行(4月) ・その他 	<p>B</p>	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織の機能強化を行い、上士幌町子ども教育ビジョンの具体化を図っている。 ・幼児から高校生まで「自己管理能力」を身につけていくため、シール帳、ノート、手帳を各学校で活用した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能なi Bノート、サポートブック「アーチ」等となるよう、常に見直しを行い、改善に努める必要がある。 	<p>担当課等</p> <p>教育推進課 幼児教育課 生涯学習課</p>
<p>○地域とともにある学校づくり「コミュニティ・スクール制度」の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から導入 			<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール委員会(5/21)・研修会(5/21)の開催。 ・子ども園、各小中高等学校の学校運営協議会の開催(子ども園1回、小中1回、上小2回、上中2回、上高1回開催)。 ・CSコーディネーター2名の配置。 上士幌小学校(週2日)、上士幌中学校(週1日)、上士幌高校(週3回)に駐在し、CSレター(カレンダーを含む)の作成、学校と地域の連絡調整等を行っている。 		<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校運営協議会において熟議を行い、コミュニティ・スクール委員会で情報共有やCSに関する理解促進が図られた。 ・学校ごとにCSコーディネーターに伴走者を配置し、協働連携することにより課題解決や発見的創造を図った。 ・ゆめ育広団の登録数が増加している。 	

<p>○課外活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師等の積極的な課外活動での活用 ・少年団から高校までの課外活動の環境整備と指導者の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・CSレター「きずな」の発行(6回)。 ・「ゆめ育」応援団の募集と登録(現登録数 企業35、団体6、個人88) ・各学校運営協議会活動の実施。 <p>上小、上中におけるあいさつ運動等を実施。</p> <p>8月から健康ポイント事業を連携して実施している。</p>	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの浸透のため積極的に情報発信を行うとともに、各学校運営協議会と「ゆめ育」応援団の協働活動を通し、町民の生涯学習の機会や活躍の場を提供し、人材育成を進める必要がある。 ・コミュニティ・スクールの深化を図るため、各学校運営協議会の機動的な連携や、かみしほろ学園内への(仮称)地域協働部会の新設に向けた調査研究を行う。 	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部課外活動へ外部講師を招聘するとともに、中学校と高校、少年団と中学校の指導者同士の連携を図った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課外活動における、外部講師の確保及び活用をさらに進めるとともに、少年団、中学校、高校の連携を進める必要がある。
<p>○確かな学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級教諭の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・かみしほろ学園の推進、「連携教育部会の取組・部活動交流」参照。 ・子どもの夢・未来応援事業の実施 <ol style="list-style-type: none"> ①「Mr. マリック講演会&超魔術ショー」(9/14) ②「高平價二講演会」(2/9 予定) 	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部課外活動へ外部講師を招聘するとともに、中学校と高校、少年団と中学校の指導者同士の連携を図った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課外活動における、外部講師の確保及び活用をさらに進めるとともに、少年団、中学校、高校の連携を進める必要がある。 	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級教諭や学校教育推進支援教員・専科教諭(音楽TT)の配置による体制の整備により、きめ細かな学習・生活の指導が図られた。 ・今年度初めてとなる専科担当教諭の配置により、教職員の負担軽減が図られた。
<p>・ティームティーチングによる習熟度別指導の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上土俵小学校1年生・2年生にわけ、小1プロブレムの解消と児童一人ひとりと向き合える35人以下学級の実施による教育活動を推進。(少人数学級教諭1名配置) ・上土俵小学校3年生・4年生・5年生の学級に学校教育推進支援教員を各1人配置し、習熟度別指導ができるような体制整備を推進。(TT3名配置) 	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めてとなる専科担当教諭の配置により、教職員の負担軽減が図られた。 	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育と社会教育をつなぐ子どもの
<p>・小学校への専科教諭配置の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任に代わり体育と理科の授業を担うことができる専科教諭を配置し、体力向上や理科教科の充実と各教員が子ども達一人一人と向き合える体制整備を推進。(2名配置) ・芸術分野における豊かな感性を育むため、音楽の専科教諭を配置(TT1名)。 	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部業務委託を行い実施。 ①サイエンス (6/29、9/21) 	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育と社会教育をつなぐ子どもの

			<p>②英語 (10/26)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校で「ゆめ育」応援団等と連携・協働して「放課後ほろんクラブ」を実施(上小6回、中小3回)。 ・認定こども園に外国語指導助手と国際交流推進員を常駐。 ・小中高等学校に外国語指導助手を派遣。 ・地域サロンの開放 	<p>居場所づくり事業として、学習や体験を通し、子どもたちの土曜日の生活の充実が図られた。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機関、町他課部局等と同じ土曜日に実施されている体験事業等を精査し、協働や統合実施等を検討するほか、学習テーマについても、今日的課題を取り上げる等プログラムの精査が必要である。 <p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の日常的には体験が困難な内容のプログラムの展開により、子どもたちの放課後の過ごし方の充実が図られた。また、「ゆめ育」応援の参画により、コミュニティの形成も図られた。 ・認定こども園や小学校への外国語指導助手の常駐により、外国語に親しむとともにコミュニケーション能力の向上が図られた。 ・町内で働く外国人を「地域サロン」に招き、併設する認定こども園の子どもたちと交流することができた。 ・上土俵小学校に週3日常駐し、外国語活動のみではなく、その他の授業や放課後活動にも一緒に参加することにより、コミュニケーション能力の向上に寄与している。 <p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書コーナーディネーターを中心に、学校司書教諭、地域、図書館と連携しながら子どもの読書推進が図られた。また、計画的に学校図書室の整備・充実も努めた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も「上土俵町第1期子どもの読書推進計画」に基づき、地域全体で、子どもの読書推進を図る必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後対策の充実 ・外国語活動教育の推進 ・読書の推進 			<ul style="list-style-type: none"> ・読書コーナーディネーターを町内小中学校に駐在(上小週2日、上中週1日)。 ※上土俵高校に10月から週1~2回訪問予定 ・ブックキャラン等を実施(上小1回、上中1回)しながら、認定こども園、小中学校における図書の購入。 ・中学校における図書ボランティアによる図書整備(隔週水曜実施)。 ・図書館、お話し「カックウ」、ゆめ育成機関等による読み聞かせの実施(適宜実施)。 ・図書館事業(巡回文庫、ブックスタート、図書館講演 	

<p>○体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ環境の整備 	<p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の平均記録 (小学5年・中学2年実施) →北海道トップレベル</p>	<p>会等)の実施(相互実施)。</p> <p>《その他学力向上に向けた対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県東成瀬村教育視察の実施 (6月23～25日 8名参加) ・昨年度まで実施してきた「公営塾」を見直し、「自ら課題を見出し自ら解決する習慣を身に付けると共に家庭学習の定着」を主眼に、長期休業期間中に自学自習をサポートする場として「上土幌町まなびの広場」を開設。映像教材「スタディサプリ」を活用し、大学生等をサポートに配置。 <p>(夏期まなびの広場実施状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 上土幌中学校生徒 140名中 37名 ・実施日数 11日 延出席者数 188名 <p>※冬期まなびの広場も同様に実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツセンターに水飲器を設置。 ・町民マラソン大会、水中レクリエーション祭ほか各種スポーツ大会の実施。今後、スキー及びスケート大会を実施予定。 ・子ども向け水泳教室、幼児体操教室の実施。今後、スキー及びスケート教室を実施予定。 ・スキー普及対策事業については、ぬかびら源泉郷スキー場オープン時に実施予定。 	<p>・学力日本一と言われる東成瀬村の視察で学んできたことが、各学校運営に活かされてきている。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スタディサプリ」はスマホやPCがあればいつでもどこでも利用することができる。次期学習指導要領のテーマ「主体的・対話的で深い学び」に向け、学習意欲の向上や家庭学習の習慣化に結び付け、探究心を育てていく必要がある。
<p>○体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ環境の整備 	<p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の平均記録 (小学5年・中学2年実施) →北海道トップレベル</p>	<p>・少年団活動、部活動の活性化</p>	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用しやすい施設づくりを目指し、既存施設の整備を進めるとともに、各種スポーツ大会や教室を実施し、子どもたちの体力づくりを実施した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等総合管理計画に基づく施設整備の検討が必要である。 ・各種大会、教室の実施については、参加人数だけでなく、育みたい力や專業効果を検証し、実施する必要がある。
<p>○地域資源を生かした体験活動の推進</p>	<p>○かみっ子ふるさと体感塾(2回)を実施し、体験の効</p>	<p>・少年団体験会の実施(4/14、参加者:26名)。 ・全道・全国大会等への出場者に対し、参加に係る経費の一部助成(13件、67名)。</p>	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年団体験会を通じて少年団への加入促進と交流が図られた。 ・全道・全国大会等への出場者に対し、参加に係る経費の一部を助成して、参加者の負担軽減と優秀な成績を讃えた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年団数及び加盟団員数が減少している。今後、少年団本部と連携し、指導者の確保を含めてスポーツ環境の整備が必要である。 <p>(実績)</p>

<ul style="list-style-type: none"> 郷土を学ぶ体験、自然環境を生かした体験、基幹産業に触れ合う体験 体験活動の単位化を検討 	<p>学校（仮称）の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活かした体験活動の体系化 本町の自然環境を活かした体験活動を開設 	<p>特色ある体験活動を実施した。</p>	<p>果を客観的に捉える I K R（生きる力）調査を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後対策事業における体験プログラム等の実施。 ※「放課後対策の充実」参照 生涯学習ラリーの事業内容の充実（チーム制、商店街で体験等）を図り、地域 00～資源を活かす体験プログラムを実施（10/12、19 チーム 78 名参加）。 自然環境教育推進事業として N P O びがし大雪山自然ガイドセンターに委託し、小中学校において体験学習の実施（15 回）。 上土幌高校において地域資源を生かした「上土幌学」を実施し、上土幌町及び十勝の自然、郷土史、産業、食などについて学んだ（受講生 26 名、53 時間実施）。 ポランティアセミナーを開催（7/30）し、中高生ボランティアの参加を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> I K R（生きる力）調査の結果から、事前調査の数値が多く項目で向上し、全体指標である「生きる力」の効果が表れている。 （課題） 既存の体験活動の充実と新たな体験活動の開発を進めながら、幼児小中高のつながりを意識し、発達課題に対応した体験プログラムや必要課題を見極めた横断的体験プログラムの構築等、町全体の体験活動の体系化を進める必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> 子ども発達支援センター事業の充実 乳幼児からの適切な発達を促す取り組みの推進 途切れない支援体制確立 	<p>〇乳幼児からの適切な発達を促す取り組みを通じて、発達のアンバランスな子どもの軽減につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の実施内容 ①発達相談件数 128 件 ②通所支援件数 284 件 ③母子保健協力件数 3 件 ④関係機関（園・各学校）との連携（教育相談含む）32 回 ⑤通所支援事業親子対象事業 1 回 ⑥地域開放事業 小学生以上 18 歳以下対象のスキルトレーニング・運動・音楽 30 回 145 名 幼児対象の体を使った遊び場提供 5 回 7 組 相談支援事業 22 件 ⑧研修会の実施 関係者向け研修会 1 回 ⑨上土幌高校通級指導への支援 ⑩委託事業 心理検査や作業療法士による検査・指導 北斗病院（作業療法士・言語聴覚士）による指導 	<p>（実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談などにより把握した児童の困り感に対して、地域開放事業につなげていくことができた。また、1.6 歳・3 歳児健診後の遊ぶことができる場所として、幼児の事業への参加に結び付けられた。 （課題） 地域開放事業の参加数増に伴い、発達支援センター内での活動は手狭になりつつあり、今後、活動場所や人数調整の見直しが必要である。 幼児対象の地域開放事業については、保護者からの要望に基づき参加しやすい日程調整の見直しが必要である。 子ども園入園前の親子の居場所が少ないため、前期は保健師と連携し発達相談として取り組んできた。今後は子育て支援センターと連携した取組を進める必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある上土幌高等学校の振興支援 部活動の支援による活性化 キャリア教育（一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な意欲・態度や能力を育ていく教育）の推進 学力向上、進学対策の推進 遠距離通学者や通学困難者の民間下宿、又は寮整備の 	<ul style="list-style-type: none"> 地元からの上土幌高校進学率 38%（H23～27 平均）→50%以上 定員 80 人の入学生確保 	<ul style="list-style-type: none"> 地元からの進学率 平成 28 年 27% 平成 29 年 31% 平成 30 年 15% 平成 31 年 26% 入学者数 	<p>（実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力ある選ばれる高校としていくため、今年度の振興策を追加し、地元はもとより、土幌町・音更町・帯広市の各中学校訪問を充実させ、新たに石狩管内の中学校訪問を実施してきており、認知度が 	

<p>検討</p>	<p>平成 28 年 60 名 平成 29 年 80 名 平成 30 年 50 名 平成 31 年 43 名</p>	<p>名に拡大 ④長期休業期間中の部活動参加生徒への交通費全額補助 ⑤長期休業期間中の進路講習会参加生徒への交通費全額補助 ・職員派遣による支援 ①上土幌学やコミュニティスクール支援のため、コーディネート者を週3日派遣 ②通級支援のため、子ども発達支援センター職員を週2回派遣 ・高校入学希望者獲得のための取組 ①管内中学校訪問 7月 帯広・音更・土幌 計15校 9月 帯広・音更・土幌 計16校 ②石狩管内中学校訪問 9月 札幌・石狩・江別 計20校 今後の対応 ・第3回管内中学校訪問を11月に実施 ・上土幌町札幌会、上土幌町東京会でのPR活動 ・上土幌町教育魅力化ワーキンググループ（高校在校生・O日により構成）を設置し、地元中学生に上土幌高校の魅力を発信していく。</p>	<p>徐々に高められてきた。 ・上土幌学やコミュニティ・スクールの支援に伴い、地域人材の協力体制がスムーズに図られるようになってきた。 (課題) ・充実した学校生活の良さや進路決定実績などの高校の魅力を、多様な方法で情報発信する必要がある。</p>	<p>生涯学習課</p>
<p>◇幼児から高齢者までが互いに学び育つ生涯学習センターを活用した世代間交流の促進</p>	<p>施設年間利用者数 44,500人（H26） （児童保育所・発達支援センター含）→84,500人（H29） H30以降各年1,800人増</p>	<p>施設年間入館者数 ・平成29年度（6月～） 185,382人 ・平成30年度 390,410人 ・令和元年度 （4月～9月） 220,085人 ※自動ドアカウンタ一延数</p>	<p>(実績) ・サークル活動や会議、講演会等の利用やカフェくれよんの営業等により様々な世代や立場の方々の間の交流が図られた。 (課題) ・ブレイルームの書さ対策が課題である。 ・カフェくれよんの運営を通し、障害者やその自立支援に対する理解が進むよう利用の促進を図る必要がある。また、さらには、障害者を含め様々な立場や世代の方々の間の交流を図る必要がある。</p>	<p>A</p>

【別記】 事業目標の進捗状況 (全国学力・学習状況調査 小学6年・中学3年実施より)

事業目標	平成27年度調査結果	平成28年度調査結果	平成29年度調査結果	平成30年度調査結果	平成31年度調査結果	平成31年度目標
・将来の夢や目標を持っている児童・生徒	小学生 94.8% 中学生 71.8%	小学生 89.1% 中学生 71.4%	小学生 92.3% 中学生 61.7%	小学生 72.9% 中学生 76.3%	小学生 69.0% 中学生 75.0%	小学校 100% 中学校 100%
・授業以外の勉強時間1時間以上の児童生徒の割合	小学生 平日 52.7% 土日 73.7% 中学生 平日 48.7% 土日 53.8%	小学生 平日 45.4% 土日 49.0% 中学生 平日 35.6% 土日 40.4%	小学生 平日 38.4% 土日 36.0% 中学生 平日 38.2% 土日 49.9%	小学生 平日 41.7% 土日 設問無 中学生 平日 42.1% 土日 設問無	小学生 平日 28.6% 土日 設問無 中学生 平日 48.0% 土日 設問無	小学生 平日・土日共に 80%以上 中学生 平日・土日共に 80%以上
・朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学生 97.4% 中学生 92.3%	小学生 92.8% 中学生 88.1%	小学生 97.5% 中学生 91.2%	小学生 95.9% 中学生 81.6%	小学生 95.2% 中学生 90.4%	小学生 100% 中学生 100%

※土日の勉強時間の設問は平成30年度より削除された

◇子どもの健やかな成長支援

KPI

事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題		担当課等
				達成度 (R元上期)	達成度 (R元上期)	
妊婦相談実施率	100%			達成度 (R元上期) 100.0%		
赤ちゃん訪問実施率	100%			達成度 (R元上期) 100.0%		
乳幼児健診受診率	100%			達成度 (R元上期) 100.0%		
◇妊婦相談 (H26 100%)	100%	・全ての妊婦と面談を実施	A	(実績) ・全ての妊婦と面談し、必要な支援を実施している。今後も妊婦期から子育て支援を充実させるために妊婦面談を継続する。	保健福祉課	
◇赤ちゃん訪問 (H26 100%)	100%	・全ての赤ちゃんと保護者に対し家庭訪問を実施	A	(実績) ・全ての家庭に訪問し、必要な支援を実施することができた。訪問不可の場合でもその他の方法で状況把握することを継続する。	保健福祉課	
◇乳幼児健診 (H26 98.6%)	100%	・対象者全ての乳幼児健診を実施	A	(実績) ・対象者全てに乳幼児健診を実施している。児の体調不良や保護者の都合により未受診の場合、こども園や関係機関で情報連携しながら、状況把握することを続ける。	保健福祉課	
◇子ども発達支援センター事業の充実 ・乳幼児からの適切な発達を促す取り組みの推進 ・適切なない支援体制確立	乳幼児からの適切な発達を促す取り組みを通じて、発達のアンバランスな子どもを軽減につなげる	「◇豊かな子育てを支える質の高い学力・体力・多様な体験機会の体系化」の「〇子ども発達支援センター事業の充実」と同内容のため、記載省略	B		教育推進課	

◇命の尊さを確認し心豊かな成長と家庭形成に向けた支援

KPI

生教育モデルに基づいた認定こども園、小学校、中学校での授業の実施率	100% (H26 100%)	達成度 (R元上期)	100.0%
児童・思春期に対する心の健康講座実施率 (中学校・高校・保護者)	100% (H25 高校生実施)	達成度 (R元上期)	100.0%
20歳から39歳まで女性有配偶者率	増加	達成度 (R元上期)	-

実施予定事業	事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇生教育事業 ・発達段階に応じた生教育の実施	生教育モデルに基づいた認定こども園、小学校、中学校での授業の実施率 →100% (H26 100%)	100%	・小学校1回、中学校1回の生教育授業を実施 ・11月～3月までに認定こども園、小学校、中学校で各1回を実施予定	A	(実績) ・生教育モデルにもとづき各年代に対して生教育支援チームの協力を得て授業を継続しており、発達段階に合わせた生教育が展開できている。 (課題) 時代の変化とともに性に対する普及啓発内容が複雑化しており、専門的な視点を用いて指導内容を改善することが課題となっている。	保健福祉課
◇こころの健康づくり支援事業 ・学齢期・思春期に向けた心の健康づくりに関する知識の普及 ・関係機関と連携した相談支援体制の強化	学童・思春期に対する心の健康講座の実施率 (中学校・高校・保護者) →100% (H25 高校生実施)	100%	・発達支援センターが小中高生に対して教育ジャーナリストを講師とした自殺予防に関連する講座を11月に開催予定。	A	(実績) ・発達支援センター等と連携し自殺予防という共通目的のもと講座を開催することで、子どもたちの心の健康づくりに役立っている。	保健福祉課
◇家庭形成に向けた出会いの機会創出支援			・取組みの実施に応じて支援	B	(実績) ・H28年度に1回実施	企画財政課 商工観光課 農林課 農業委員会 事務局
◇子育てを通じた男女共同の推進支援			・育児の喜びを実感できることを目指し「マミーズブラザ (妊娠期・講座I)」「カンガルー教室 (親子ふれあい体験)」を実施。 ① 「マミーズブラザ講座I」年3回中、2回実施。 参加人数 延8名 (うち父親 延3名) ② 「カンガルー教室」 年4回中、2回実施。参加人数 延17名 (うち父親 延3名) ※「◇出産や子育てにおける安心の確保」の実施事業「地域で育む子育てサロンの開設」に記載。	B	(実績) ・育児の喜びを実感できることを目指し「マミーズブラザ (妊娠期・講座I)」「カンガルー教室 (親子ふれあい体験)」を実施。 ③ 「マミーズブラザ講座I」年3回中、2回実施。 参加人数 延8名 (うち父親 延3名) ④ 「カンガルー教室」 年4回中、2回実施。参加人数 延17名 (うち父親 延3名) ※「◇出産や子育てにおける安心の確保」の実施事業「地域で育む子育てサロンの開設」に記載。	保健福祉課 幼児教育課

3 健康で安心して暮らせるまち

数値目標	基準値	目標値 (H31まで5年間)	達成度 (R元上期)
健康寿命の延伸 (不健康な期間の短縮)	【平均寿命ー健康な期間の平均ー不健康な期間の平均】 (H25) 男性 81.84歳ー80.52歳=1.32歳 (H25) 女性 86.88歳ー83.39歳=3.49歳 ※厚生労働科学研究費補助金 「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」のプログラムにより北海道が算出	男性 1.0歳 女性 3.0歳	(H30.3策定：北海道健康増進計画より) 男性 79.12歳ー78.23歳=0.89歳 女性 86.36歳ー84.16歳=2.20歳 ①要介護 (要支援) 認定者数 (H28年1月 (暫定)) ②人口：平成27年国勢調査 ③死亡数：平成23年~27年人口動態統計 (厚労省) ※目標値の不健康な期間は短縮したが、平均寿命は男女とも低下し、男性の健康な期間 (健康寿命) が減少している。母数に対する死亡数等の影響が大きいと思われる。 ※国の示す健康寿命と算出方法が異なるほか、北海道が算出する市町村の健康寿命の公表時期が不明。
要介護認定率	17% (H27年6月現在)	19.47% (H32年第7期介護保険事業計画値19.94%)	18.25% / 103.9%

◇健康管理の習慣化を促進

KPI

乳がん・子宮がん検診受診率	100%	達成度 (R元上期) 子宮30.7% / 乳37.5% ※H30実績
特定健診実施率	60%	達成度 (R元上期) 55.6% / 92.7% ※H29実績
肥満 (BMI25以上) の人の割合	28%	達成度 (R元上期) 33.4% / 80.7% ※H29実績

実施予定事業	事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇生活習慣病の発症・重症化予防の推進 ・特定健康未受診者への勧奨 ・健診結果説明会の充実 ・健診受診者へのスタンプポイント事業 ・食育に関する普及啓発促進	特定健康診査実施率→ 60% (H21~H25 平均 42.6%) 特定保健指導実施率→ 65% (H21~H25 平均 59.6%) 肥満 (BMI25以上) の人の割合→ 28% (H25 29.3%)	H29 法定報告で 実施率55.0% H29 法定報告で 実施率55.6% H29 法定報告で 肥満割合33.4%	・特定健診及び18~30歳代の基本健診、後期高齢健診の無料化 ・後期高齢健診の健診項目充実 ・地区担当による未受診勧奨訪問の充実 ・地区担当による健診結果説明や訪問指導の充実 ・重症化予防のための2次検査継続 ・健康ポイント事業の継続 ・栄養コラムや健診会場の栄養改善に関する情報提供の充実 ・スマートライフかみしほろの普及 (ロゴマークの活用) ・スマートライフ食生活 (適度な食生活) 推進 (商工会との連携による野菜摂取の促進)	B	(実績) ・地区担当による受診勧奨訪問や普及啓発等の充実により特定健診実施率の向上を目指している。 ・特定保健指導や重症化予防などの個別指導や集団健康教育において、資料や媒体を更新し、生活に即したわかりやすい指導が展開できている。 ・スマートライフかみしほろのロゴマークをテーマごとに活用し、健康づくりに関する普及啓発に努めている。 ・商工会と連携し野菜摂取をテーマにしたお弁当や総菜の販売・提供を継続実施	保健福祉課

◇がん検診受診促進事業（医療との連携） ・乳がん予防キャンペーン講演会の開催 ・乳がん専用PET検診費用の助成	乳がん・子宮がん検診（好発年齢）受診率→100% (H26 19.8%) 胃がん・肺がん・大腸がん検診（好発年齢）受診率→20% (H26 17.0%)	H30年度推定値 子宮 30.7% 乳 37.5% 胃 19.2% 肺 18.5% 大腸 20.6% ※対象年齢（子宮 20～69歳、乳、肺、大腸 40～69歳、胃 50～69歳） ※乳がん検診は、国報告に準じ、ペット検診を受診率に含まず。	・教育委員会との連携による運動推進（健診後運動指導・・・10月時点で延べ17名へ実施）	している。 ・上土幌町健康ポイント事業の活用や教育委員会との連携により、健診後に運動プログラムを提供し、利用者の運動習慣改善機会を確保できている。	保健福祉課
◇心の健康づくり推進 ・相談体制の整備 ・メンタルヘルスや自殺予防に関する普及啓発	自殺による死亡者数→0人（年平均2人 ※H20～24）	年平均 1.0人 ※H26～30（十勝地域保健年報、厚労省HP）	・自殺予防週間に思春期、若者に対する普及啓発のためのパネル展示を2カ所で開催（ふれあいプラザ、わかか）。自殺予防月間にも展示予定 ・メンタルヘルス学習会（企業、女性部集会）開催 ・ゲートキーパー研修会開催予定 ・心の相談日定例開催	（実績） ・自殺予防週間や月間を活用し自殺予防や心の健康づくりについて正しい知識の普及を促進している。 ・ゲートキーパー研修会、心の相談日の開催で身近な場所でも相談できる体制が整備されつつある。	保健福祉課

◇地域包括ケアシステムの実現

KPI

小規模多機能型居宅介護利用者の登録者数	0人（H26末）→24人	達成度（R元上期）	21人 / 87.5%
まるごと元氣アッププログラムへの延参加人数	15,600人（月65人×48週×5年）	達成度（R元上期）	10,634人 / 68.2%
地域活動支援センター等利用者数	13名（H26年 8名）	達成度（R元上期）	14名 / 107.7%

実施予定事業	事業目標	達成度（R元上期）	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇地域医療を支えるための医療従事者等の確保 ・医師・看護師等の確保対策支援 ◇24時間365日を支える医療・介護体制の整備 ・救急医療体制の充実 ・在宅支援診療所の整備 ・医療・介護の連携 ・セラピストによる在宅リハビリテーション支援の実施	医療機関等の数の維持 診療所2カ所、歯科医院2カ所、調剤薬局2カ所 訪問診療件数 （町内医療機関2カ所合計）	維持できている 訪問診療件数（上半期） 延 682件	・地域医療体制及び救急医療体制を維持するため、社会医療法人北土上土幌クリニック運営の不採算分に対する補助を実施。 ・地域リハビリテーション支援事業により、要介護認定前の二次予防が必要な高齢者に対する理学療法士による訪問指導や介護予防事業での相談支援を推進し早期からの連携を図る。	A	（実績） ・医療・介護の連携については、定期的な開催している地域ケア会議を活用し、医師をはじめとする医療関係者と介護関係者により課題検討や情報交換により連携を持っていく。他にも町内の介護支援専門員で構成する「ケアマネ連絡会」を	保健福祉課

<ul style="list-style-type: none"> 発達障がい児へのリハビリプログラム 介護職員初任者研修実施事業 	<p>訪問看護件数(町内事業所2か所、医療・介護含む) 訪問・通所リハビリの利用者数の増加</p> <p>医療介護連携にかかると協議開催数一年3回(H28中に協議体設置)</p>	<p>訪問看護件数(上半期) (医療・介護含む) 延 345件 訪問リハビリ利用者 実17人 通所リハビリ利用者 実64人 協議体実施 H30未</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上土幌調剤薬局や上土幌歯科クリニックによる訪問支援(居宅療養管理指導)の実施。 ・2か月に1回のケアマネ連絡会にて、事例検討会を通じたスキルアップを支援し、悩みや課題の共有を図っている。 ・地域の医療・介護資源の把握として、かみしほろ在宅医療・介護事業所ハンドブックの内容を更新。 ・介護職員初任者研修をまちづくり会社に委託し実施 	<p>開催し、事例検討や利用者支援についての情報交換を行っている。 (課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の高齢化は課題であり、24時間365日の救急医療体制を踏まえた地域医療の確立のため、安定的な医師体制の確保が必要。 ・デイケアに利用者が一極集中せず、デイサービスや地域のサロン、介護予防教室等との循環を図る必要がある。
<p>◇介護度の維持及び重度化防止のための介護サービスの実と利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅・施設・地域密着型サービスの充実 ・介護サービスの質の向上 ・利用者負担への支援 	<p>介護度の改善率の上昇 施設サービス利用者の割合 23.2%(H26末)→維持 小規模多機能型居宅介護利用者の登録者数 0人(H26末)→24人</p>	<p>要介護認定更新・区分変更者における介護度維持・改善率 62.2% 要介護認定率 19.5% 施設サービス利用者率(全認定者中) 21.3% 小規模多機能型登録数 21人</p>	<p>・有効期間内にサービス利用の実績がない対象者へは更新しないことを推奨。</p> <p>・総合事業のみを利用している高齢者については、要介護認定更新よりも事業対象者としての総合事業利用を調査した。</p> <p>・認知症による服薬困難や身体機能低下により頻回な訪問支援が必要な事例については、宿泊機能も有する小規模多機能型居宅介護への利用調整を図った。</p> <p style="text-align: center;">B</p>	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護認定者の中では、要支援1～要介護1が5割強を占めている。早期の認定により適切な支援へと繋がることで、重度化の予防が図られていると考えられる。 ・要介護は軽度であっても認知症により多様な支援が必要となる事例が増えている傾向があり小規模多機能型居宅介護の支援が効果的となっている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能型居宅介護の利用により、在宅生活支援が安定した事例については、他の在宅サービスへの調整を図るなど、必要とする対象者へのサービス内容が適切に提供されるような支援が求められる。
<p>◇介護予防の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康時からの動機づけや生活習慣改善に向けた支援の強化 ・官・NPO・大学との協働事業の推進(健康づくり・生きがいづくり・人づくりに効果) 	<p>まるごと元気アッププログラムへの延参加人数 15,600人(65人×48週×5年)</p>	<p>延参加人数 10,634人 達成率 68.1%</p>	<p>・年1回のお元氣度測定会の実施により、心身機能低下がみられる方の早期発見、早期対応を行う。</p> <p>・高齢者実態調査で把握した二次予防事業対象者には、まる元運動教室や運動自主サークル、サロン等への積極的な参加を働きかける。</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月末現在の登録者は70人。 ・8月末のお元氣度測定会には、111名が参加。シルバークラス生、一般参加者が増えてきている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室参加者の定着率が高いため、新規加入が難しい場合がある。 ・元気な方で継続希望者を修了とするのは難しいため、特に予防が必要なのが課題 <p>利用できるよう調整を図るのが課題</p>

<p>◇認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発及びパンフレット作成 ・認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催 ・認知症ケアパス作成 ・高齢者の見守り体制の構築 	<p>認知症施策にかかると協働の設置及び協議会開催 数→年3回</p> <p>認知症初期集中支援チーム(専門サポート医等)による対応 事例数)→年4事例</p> <p>認知症ケア講演会の実施 認知症カフェの数→1か所</p>	<p>・十勝広域 1 町主催 0</p> <p>・集中支援チーム 3 事例実施</p> <p>・認知症カフェ 年6回実施</p>	<p>・集中支援チームによるサポート実施 1 事例終了 2 事例支援継続中</p> <p>・認知症に関する知識の普及啓発</p> <p>認知症サポーター養成講座の実施 役場職員対象 1 回実施済 中高生対象 各1 回実施済</p> <p>・認知症ケア講演会実施 1 回実施済</p> <p>・いっぶくしていく会及び専門職の協働による認知症カフェの開催 月定例開催 3 回実施済</p> <p>・近隣自治体と共同連携による新たな徘徊見守りシステム(オレンジセーフティネット)の整備へ向けた取り組み</p>	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期集中支援チームは有効活用できており、認知症の人やその家族のサポートができています。 ・認知症カフェの開催により、参加者の認知症に対する理解が深まっている。 ・帰宅困難が予測される対象者(年度末現在7名)をオレンジセーフティネットとして登録済 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期集中支援の対象者把握によりチームとして早期支援に取り組む。 ・認知症サポーター養成講座を活用し、認知症への理解等の啓発活動の推進。 	<p>保健福祉課</p>
<p>◇住民のニーズに適切に対応した隙間のない支援と住民による支えあい活動により高齢者が不安なく過ごせる環境づくりを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉協力員制度創設事業(高齢者等見守り体制の構築) ◇買い物や通院、見守りを支援する仕組みの構築 ・緊急通報システム ・除雪費助成事業 ・高齢者等福祉バスの運行 ・地域における互助活動推進(自主防災組織・サロン等) ・元気高齢者による買い物代行サービスの実施 	<p>小地域ネットワーク活動 等地域活動の数→各行政区に1か所</p> <p>生活支援にかかると協働の設置及び協議会の開催 数→年2回</p>	<p>・小地域ネットワーク活動実施行政区 5ヶ所</p> <p>・生活支援体制整備に係る協議体の開催 2 層協議体 4 回実施 1 層協議体 未実施</p>	<p>・高齢者等福祉バスの運行</p> <p>・地域における互助活動推進</p> <p>○高齢者等福祉バスの運行(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地線に水曜日を追加したことにより、利用延べ人数が157名増加した。 ・利用の増えているバス停は、交通ターミナル、生涯学習センター、北地区集会所等 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行対象の拡大(コミュニティバス化)を検討するとともに、特に農村部におけるバス以外で対応できない細かな移動支援の検討。 <p>○地域における互助活動推進(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者や町内会とスムーズな情報共有を可能にする地域福祉支援システムを11月より稼働。 ・地域実態調査に関する町内会、社協と打ちあわせにより、要配慮者の把握やサロン活動等の必要性について共有できた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会と互助について話し合いをもつことにより、互助に対する意識をもち始めているものの、行政依存の傾向は強い。 	<p>保健福祉課</p>	

<p>◇高齢者の住まいの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者見守り付安心住宅の整備 ・住宅改修やリフォーム費用の助成事業 		<p>住宅改修 13件(介護保険)</p> <p>上乗せ改修 1件</p> <p>北団地バリアフリー化改修 5戸</p>	<p>・高齢者の在宅生活を支えるため、必要な改修への支援</p> <p>・高齢者が暮らしやすい住宅環境を整備するため、北団地のバリアフリー化改修を、過去の空き家に対して平成 30 年度に 2 戸実施、令和元年度に 3 戸を実施中。</p>	B	<p>また、具体的な地区活動の実施方法等についても支援が必要。災害発生時のためにも、緊急連絡先の把握は早急に行いたい。</p> <p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福寿協会に近い北団地周辺を福祉エリアとして活用。空き室のバリアフリー化により、高齢者でも暮らしやすい環境を整えた。 ・北団地バリアフリー化 3 戸実施中。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り機能については、今後関係機関と検討が必要。 	保健福祉課 建設課
<p>◇権利擁護センター機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度をはじめとする権利擁護事業の利用促進 	<p>市民後見人養成研修の受講者数 6 人(H26 年度)→15 人</p> <p>権利擁護センター(法人後見)の成年後見制度受任件数 1 人(H27 年 8 月)→5 人</p>	<p>市民後見人養成研修の受講者数 8 人(H29 年度)</p> <p>権利擁護センター(法人後見)の成年後見制度受任件数 3 人</p>	<p>・市民後見人養成研修修了者の活動を支援する。</p> <p>・権利擁護に関する相談を受け、金融管理が困難な高齢者等の生活を支援する。</p> <p>・成年後見制度の利用相談及び手続等について支援している。</p> <p>・権利擁護センター地域包括支援センターとの相談対応により、虐待事例による虐待防止ネットワーク会議(部会)の開催から成年後見制度利用検討委員会により町長申立て手続きを行った。</p>	A	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断能力に不安がある本人やその家族、ケアマネジャー、金融機関などから様々な権利擁護に関する相談を受け、地域包括支援センターや家庭裁判所等と協働して支援している。 ・認知症高齢者と軽度精神発達障害者、経済的、心理的虐待事例となる高齢者の金融管理などを権利擁護センター(社会福祉協議会)が法人として 3 人の案件を受任している。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護センター機能の周知・広報及び市民後見人養成研修修了者の活動支援が求められる。 	保健福祉課
<p>◇生きがいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等の外出の機会を増やし、生きがいとなる活動の機会と動く場を確保する ・高齢者の居場所づくり(地域サロンの開催・まちなかサロン・サークル活動・老人クラブ活動など) ・地域活動ボランティアの育成 ・元気高齢者の短時間就労の構築 	<p>65 歳以上で週 1 回、各種活動の参加割合→70%</p> <p>福祉ボランティア登録人数(社会福祉協議会所管)→80 人</p> <p>生きがい事業団(仮称)の設置→1 か所</p>	<p>基本チェックリストで「週 1 回以上外出がある」人の割合 92.3%</p> <p>福祉ボランティア登録数 維持</p> <p>介護支援ボランティアポイント事業登録者 40 人(前年度比 +5)</p> <p>上土幌町人材センター開設 1 か所</p>	<p>・介護支援ボランティアポイント事業の実施やボランティアミーティングの開催で活動の活性化を図る。</p> <p>・社協の地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターと協働しながら、地域活動の活性化や互助活動を推進する。</p>	B	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援ボランティアポイント事業は、社協ボランティアセンターが運営し事業は軌道に乗っている。 ・まちづくり会社により、昨年 5 月に人材センターが開設され、徐々に登録者を増やしている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録者の増加に向けた取り組みと受け入れ機関の拡大、活動内容の充実 ・高齢者の集いの場づくりに関しても、 	保健福祉課

<p>◇障がい者雇用の促進・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業への就労の理解 ・障がい者福祉的就労の場の確保 <p>◇国等による障がい者就労施設等からの物品等の調達 の推進</p>	<p>障がい者就労継続支援B型事業所の設置→1か所</p> <p>物品等の調達目標 2,000千円 (1,501千円 H26・1,571千円 H27)</p> <p>(現状・花苗・指定ごみ袋保管・配送業務・花壇整備・管理業務など)</p>	<p>就労継続支援B型事業所 1か所</p> <p>物品等の調達実績 2,328,374円 50.1%</p>	<p>・就労継続支援B型事業所の運営費を補助する。</p> <p>・町が障がい者就労施設等から物品等を調達する。 平成31年度目標 4,650,000円</p>	<p>地域実態調査を進めながら地域に働きかけていく必要がある。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援B型事業所の支援員(人材)の確保及び利用実働向上による安定的な事業所運営が課題。 ・事業所の受注機会をさらに確保するため、事業所等と協議し、実施可能な業務の確認作業を進める。 	<p>保健福祉課</p>
<p>◇町内障がい福祉サービス事業所(地域活動支援センター等)への通所利用促進</p>	<p>地域活動支援センター等 利用者数(H26年8名)→13名</p>	<p>利用者数 14人 107.7%</p>	<p>・潜在的な利用ニーズの把握に努めた。 ・平成31年度中の新規利用者2人。</p>	<p>・関係機関と連携しながら相談支援を行い、潜在的な利用ニーズの把握に努めた。 ・工賃向上などが事業所利用者の就業意欲向上につながり、利用率は向上している。</p>	<p>保健福祉課</p>

4 移住定住による人口減少をくい止めるまち

数値目標	基準値	目標値 (H31まで5年間)	達成度 (R元上期)
転入・転出人口	転出超過250人 (2010~2014)	転入1555人 転出90人 (転入超過65人)	転入超過 221人 / 340.0% (H27年度 48人、H28年度 67人、H29年度 75人 H30年度 39人、R元年度上期-8人)

◇ひとの流れをつくる多様な就労拠点の整備と地域住民による受け入れ体制の構築

KPI

移住相談件数に対する移住件数の割合1.5% (過去5年)	2.0%/年	達成度 (R元上期)	3.8% / 190.0%
------------------------------	--------	------------	---------------

実施予定事業	事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇テレワークの推進			<ul style="list-style-type: none"> -H30年度補正予算「地方創生拠点整備交付金」に採択となり、繰越明許費により「上土幌シェアオフィス」を整備している。 (今後の対応) ・町が入居しているシェアオフィス「Network」と連携して、取組みを推進する。 	A	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に都市部の企業や個人事業主をターゲットとした「上土幌シェアオフィス」の実施設計を行った。9月より建築工事が開始。 (課題) ・「上土幌シェアオフィス」を活用したテレワークやワーケーションの促進を都市部の企業等に働きかける必要がある。 	企画財政課
◇企業版ふるさと納税 (地方創生応援税制) の活用			<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる新規事業の実施にあわせ活用する。 	C	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の活用に向けて準備を進めている。 	企画財政課
◇町民が上土幌町の魅力を伝える事業 (道の駅整備等と連携)		—	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅 かみしほろの建設 ・ナイタイ高原牧場「ナイタイテラス」営業及び周辺整備 ・運営主体の取り組み 	A	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅は、30年度に実施設計が完了し、今年度建設工事中である。施設名称は「道の駅 かみしほろ」と定め、国土交通省への駅登録申請を行う事前協議中である。令和2年5月28日オープン宣言活動を行うこととしている。前日の27日にセレモニーを実施予定。 ・ナイタイテラスは、予定通り4月27日先行オープン、6月3日全面オープンで営業を実施している。入込数は9月末現在、約12万人に上っている。旧レストハウス解体工事を発注しており年内に完了する。跡地を含めた周辺整備設計を行う 	商工観光課

							ており、次年度整備予定である。 ・「上土幌町観光地域商社 (株)March (か- ま)」がナイタイテラスの指定管理者とし て営業を行っている。10月にはナイトツ アを一を4日間開催予定である。電力小売 りでは、5月に一般家庭を対象とした説 明会を開催している。 (課題) ・施設スタッフの人材確保が大きな課題 となっている。 ・商品開発を進めるとともに、自立した 経営を目指して推進する必要がある。
--	--	--	--	--	--	--	---

◇かみしほろの発信力と価値の向上による交流と定住促進

KPI

	4.0%/年	達成度 (R元上期)	20.2% / 505.0%	達成度 (R元上期)	514人 / 514.0%	達成度 (R元上期)	111人 / 11.1%	評価	実績及び課題	担当課等
イベント参加人数に対する相談件数割合3.3%	50組100人増加	達成度 (R元上期)		達成度 (R元上期)		達成度 (R元上期)				
ふるさと納税特典品として旅行商品を開発することによる入込客数	500組1,000人増加	達成度 (R元上期)		達成度 (R元上期)		達成度 (R元上期)				
特別町民証の発行による来訪者数	達成度 (R元上期)			達成度 (R元上期)		達成度 (R元上期)				
実施予定事業	事業目標	取組内容		取組内容		取組内容				
◇移住定住プロモーションの推進	移住・二地域居住者数 15名 (H26)→20名/年	移住定住プロモーションの推進 (今後の予定) ・北海道暮らしフェア (大阪 10/5) ・北海道暮らしフェア (名古屋 10/6) ・4町合同暮らしセミナー (東京 11/9) ・北海道暮らしフェア (東京 11/10) ・かみしほろ見本市 (東京 2/15) ・上土幌暮らしセミナー② (東京 3月頃)		移住定住プロモーションの推進 (実績) ・本気の移住相談会 (東京 6/23) 【来場者 300人】 24件 ・上土幌暮らしセミナー① (東京 9/1) 【来場者 19人】 19件 ・北海道移住セミナー (東京 9/21) 【来場者 27人】 27件 【相談件数合計 70件】 【来場者数合計 346人】 (課題) ・移住・二地域居住者を増加させるため に、継続的に上土幌町との接点の拡大や PRを行っている必要がある。	A		商工観光課			
◇ふるさと納税寄付者との交流の推進	500組1,000人増加									企画財政課
◇移住・定住相談の充実	移住相談件数 470件 (H26) →600件 (単年度)	移住相談件数 234件 ・イベント時相談件数 70件 ・上土幌コンシェルジュへの相談 164件						A	(実績) ・2/15の開催に向け、各団体、事業者と の調整。寄附者への周知に向けた準備を 進めているところ。 (実績) ・プロモーション活動やホームページ・ SNSの充実を図り、上土幌コンシェル ジュへの相談件数増加に向けた取り組み	商工観光課

<p>◇ふるさと納税による交流人口増加対策</p>			<p>・ふるさと納税寄付者が自発的に上土幌町の魅力を発信でき、かつ、町との情報交流の場として、オンラインサロンを活用する。</p>	<p>A</p>	<p>を進めていく。 (課題) ・移住相談件数を増加させ、移住・二地域居住に結びつけるため、継続的に上土幌町との接点の拡大やPRを行っていく必要がある。</p> <p>(実績) ・10月1日に上土幌町オンラインサロン「かみしほふるさとラウンジ」をオープンした。オンラインサロンの利用対象者は、ふるさと納税寄付者とし、情報発信側は、町以外に町観光協会、上土幌コシエンジェルズ、生涯活躍のまちかみしほろも加入した。 ・寄付者にはメールマガジンにより周知を図った。 ・2月15日のまるごと見本市でのオフ会を実施する予定。 (課題) ・オープンしてから間もないため会員数が少ないため、さらにPRしていく必要がある。また、サロン登録者が自発的に交流できるような仕掛けをしていく必要がある。</p>	<p>企画財政課</p>
---------------------------	--	--	---	----------	---	--------------

◇滞在や定住に柔軟に対応する多様な施設整備

KPI

生活体験住宅数	5棟 (H26) → 10棟 (H31)	達成度 (R元上期)	10棟 / 100.0%
生活体験モニター参加者数	36組94名 (H26) → 50組150名 (H31)	達成度 (R元上期)	38組 95名 / 63.3%

実施予定事業	事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
<p>◇生活体験住宅等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活体験住宅の推進 民間賃貸住宅を活用した定住支援 多様な生活体験住宅の整備 			<p>生活体験住宅数 10棟</p> <p>※即設置～短期用4戸、中長期用4戸 NPO設置～中長期用2戸</p> <p>・定住促進賃貸住宅助成事業 (想定) 52戸 60,000千円</p>	A	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活体験モニター参加数 38組 95名 (前年同期 20組58名) 継続的な移住イベントへの参加、移住HP等での周知により、生活体験者数が前年同期比で増加している。 生活体験住宅は、賃貸住宅2戸を借り上げて運用している。 定住促進賃貸住宅助成事業 36戸 38,720千円 (課題) 生活体験住宅を賃貸住宅で調整したが、目標棟数確保に向けて、検討する必要がある。 	<p>担当課等</p> <p>建設課 商工観光課</p>

5 小さな拠点形成を目指すまち

数値目標	基準値	目標値 (H31まで5年間)	達成度 (R元上期)
転入・転出人口	転出超過250人 (2010~2014)	転入155人 転出90人 (転入超過65人)	転入超過 221人 / 340.0% (H27年度 48人、H28年度 67人、H29年度 75人 H30年度 39人、R元年度上期-8人)

◇まちの整体 (公共施設再編によるコンパクト化推進)

KPI

公共施設再配置

計画に基づく推進

達成度 (R元上期)

実施予定事業	事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇多機能型生涯学習センターの建設 (H28)			建設工事及び周辺整備が平成30年度で終了		(実績) (課題)	生涯学習課
◇老朽施設の解体撤去補助			・町内の老朽施設の解体撤去に係る費用に対して1件あたり上限50万円を補助する。予算額 700万円	A	(実績) ・補助制度に対する理解が深まり、老朽施設の解体促進が図られている。 (課題) 件数 9件 補助額 381万円	町民課
◇小規模まちなか挿入型住宅整備			・平成29年度に建設した第1期8戸の入居が完了し、現在も8戸全て入居済の状況で運営している。	A	(課題) ・西団地および白樺団地からの移転により、住民の生活環境の改善が図られた。 建設8戸、うち入居済8戸 (課題) ・第2期まちなか挿入住宅は、令和元年度に実施設計を行い、令和2年度に2棟6戸を建設予定。 ・第3期以降のまちなか挿入型住宅については、今後の必要戸数や建設時期等の具体的計画を策定する。	建設課
◇子どもや若者のための居場所づくり			・昼夜問わず、サークル活動、会議・研修会、講演会での利用があった。また、カフェくれよんも通常営業し行われている。 ・会議室以外でもプロムナード等で、各世代で交流等が行われている。 ・「わっか」屋内外で利用できる遊具の貸出しを行った。 ・子ども居場所づくり事業として、将棋クラブ(8/15)、ヴァイオリン体験会(9/19・20)を実施したほか、町民有志による交流活動等が行われた。	A	(実績) ・サークル活動や会議、講演会等の利用やカフェくれよんの営業等により様々な世代や立場の方々の間で交流が図られた。 (課題) ・カフェくれよんの運営を通し、障害者やその自立支援に対する理解が進むよう利用の促進を図る必要がある。また、さらに、障害者を含め様々な立場や世代の方々の間の交流を図る必要がある。	生涯学習課

◇移動の利便性向上

KPI

農村部から市街地までの利便性に対する充足度（H27調査）

向上

達成度（R元上期）

令和元年度終了時に実績記載

実施予定事業	事業目標	達成度（R元上期）	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇地域交通ネットワークの構築			<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通のあり方検討の実施 町の公共交通の現状と課題を把握し、地域交通ネットワーク（ソフト展開）の構築を進める。 	A	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 上士幌町交通ターミナルを平成30年4月20日より供用開始。 路線バス、町内循環バス、スクールバス、都市間バス（帯広→旭川）の停留所としてだけでなく、屋敷や休憩場所として利用されている。また、平成31年4月27日より、レンタサイクルの貸出を開始。（観光協会事業） ※交通ターミナル利用者 （開館時間 6:00～21:00） H31/4/1～H31/10/15 15,035人 （H30利用者 14,064人） ※レンタサイクル利用者 （貸出時間 9:00～17:00） H31/4/27～H31/10/15 36人 （課題） 現在の地域公共交通の現状について分析し、交通ターミナルを拠点とした地域公共交通網を形成する必要がある。R1は、路線バスや高齢者福祉バス、自家用車等の利用状況を把握し、実態に即した交通網計画を策定するための基礎調査を行う。 	企画財政課
◇国道等主要道路の整備拡充による第2次・第3次医療への移動時間の短縮	<p>（関係機関に要請）</p>		<ul style="list-style-type: none"> 整備拡充の実現に向け、引き続き要望等を行った。 	A	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由民主党政策懇談会及び国・北海道に対する事業要望項目として、国道241号片側2車線化及び防雪柵設置を要望した。 	企画財政課

◇地域活性化拠点の整備

KPI

新規雇用人数	15人	達成度(R元上期)	32人 / 213.3%
--------	-----	-----------	--------------

実施予定事業	事業目標	達成度(R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
◇重点道の駅「仮称バルーン」整備		—	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅 かみしほろの建設 ナイタイ高原牧場「ナイタイテラス」営業及び周辺整備 運営主体の取り組み 	A	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅は、30年度に実施設計が完了し、今年度建設工事中である。施設名称は「道の駅 かみしほろ」と定め、国土交通省への道の駅登録申請を行う事前協議中である。令和2年5月28日オープンの宣伝活動を行うこととしている。前日の27日にセシモニーを実施予定。 ナイタイテラスは、予定通り4月27日先行オープン、6月3日全面オープンで営業を実施している。入込数は9月末現在、約12万人に上っている。旧レストハウス解体工事を発注しており年内に完了する。跡地を含めた周辺整備設計を行っており、次年度整備予定である。 「上士幌町観光地域商社 株式会社」がナイタイテラスの指定管理者として営業を行っている。10月にはナイトツアーを4日間開催予定である。電力小売りでは、5月に一般家庭を対象とした説明会を開催している。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設スタッフの人材確保が大きな課題となっている。 商品開発を進めるとともに、自立した経営を目指して推進する必要がある。 	商工観光課

プラス・ワン 上土幌町創生包括プロジェクト 上土幌版生涯活躍のまち

数値目標	基準値	目標値 (H31まで5年間)	達成度 (R元上期)
上土幌版生涯活躍のまちによる移住	30世帯50人	30世帯50人	25人 / 50%

実施予定事業	事業目標	達成度 (R元上期)	取組内容	評価	実績及び課題	担当課等
<p>◇上土幌版生涯活躍のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大都市高齢者の地方移住支援 ・地域社会との協働、スキルや知見の地域還元推進 ・多様なプログラムや自主活動の構築により健康でアクティブな生活の実現 ・地域包括ケアによる継続的なケアの提供 	<p>中高年齢者の移住</p> <p>30世帯50人</p>	<p>25人</p> <p>50%</p>	<p>・生涯活躍のまちの取組みを推進した。 (主な取組み)</p> <p>①地域包括ケアの充実</p> <p>ア 介護人材の養成・確保(初任者研修実施)</p> <p>イ 地域包括ケア充実の基盤づくり</p> <p>ウ 高齢者の住替え意向に関する調査</p> <p>エ 障がい者グループホーム及び障がい者就労事業検討</p> <p>②生涯活躍の場の創設</p> <p>ア かみしほろ人材センターの運営</p> <p>短時間・簡易な仕事を請け負う人材センターの運営</p> <p>イ 生涯活躍かみしほろ塾の運営</p> <p>講演・実践を通じて町独自の学習機会を提供するとともに、次年度以降の講座内容を検討</p> <p>総合講座、専門講座、起業塾</p> <p>ウ 健康づくり促進対策事業実施(健康ポイント事業)</p> <p>⑤移住希望者募集</p> <p>町や関係団体が実施するセミナー・移住相談会への参加</p> <p>中高年齢者向け住宅のニーズ調査</p> <p>移住希望者に対する仕事や住まいのマッチング支援</p>	<p>評価</p> <p>A</p>	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員初任者研修 町民11名受講中(12/15終了予定) ・地域包括ケア充実の基盤づくり かみしほろあすわがミーティングの開催(4回、約125名) ・アンケート実施(約1,200件発送、500件回答) ・障がい者グループホーム等検討学習会(1回予定) ・人材センター 会員34名、受注112件 ・生涯活躍かみしほろ塾 7月から継続的に講座を開催した。 総合講座 2期4日延べ656名受講 専門講座 全2回延べ106名受講 起業塾 セミナー3回27名受講 本科コース5回予定 6名申込み 健康ポイント事業 会員数579名 ・移住希望者募集 セミナー等2回参加 職業体験3回実施(課題) ・引き続きまちづくり会社と連携の上、取組を進める必要がある。 ・現行の地方創生推進交付金事業計画期間が終了するため、次年度以降の計画を検討する必要がある。 	<p>企画財政課</p> <p>保健福祉課</p>

令和元年度上期（4月～9月）

地方創生推進交付金
地方創生拠点整備交付金

検証シート

（令和元年10月1日現在）

評価区分

- A：申請どおり実施できた。
- B：おおむね申請どおり実施できた。
- C：一部申請どおりに実施できなかった。
- D：申請どおり実施できなかった。

【地方創生推進交付金】

1 生涯活躍のまち 上土幌町創生包括プロジェクト事業

【事業実施期間 平成31年4月～令和2年3月】

【交付金額 35,625,000円】（事業費71,251,000円）

事業における重要業績評価指標（KPI）	KPI増加分の累計（目標値）	R元上期までの増加分	達成度	未達成の場合の要因
中高年齢者移住者数（40歳台以上移住者数）	27人増加	25人	92.6%	目標値は令和2年度末
移住相談件数	100件増加	39件	39%	目標値は令和2年度末
人材センター利用者数（人材登録）	62人増加	34人	54.8%	目標値は令和2年度末

事業概要	実績及び今後の課題	評価	今後の取組内容	担当課等
<p>1. まちづくり会社委託事業 53,253千円</p> <p>(1) 地域包括ケアネットワーク 19,725千円（委託） （取組内容）地域包括ケア充実に取り組む 24時間365日ケア等の推進、介護人材の養成・確保充実、障がい者グループホーム・就労事業等検討、活動量計等を活用した運動習慣化による町民の健康づくりの促進</p> <p>(2) 生涯活躍（地域貢献）の場の創設 （取組内容）安定した取組みとし、利用者等の拡大をめざす。 ①人材センター運営 4,090千円（委託） ：職業紹介業務の実施 ②生涯学習大学運営 27,175千円（委託） ：中高年齢層向け学習の機会（講座）の提供 受講者ニーズを把握し、講座メニューの拡大等を図る。 （想定）・総合講座（講義中心：3期・6日間開催） ・専門講座（アクティビティ中心） ・かみしほろ起業塾（起業家育成）</p> <p>(3) 移住希望者募集 2,263千円（委託） （取組内容）継続した移住者確保のための募集活動等を行う。 ：アクティビニア向けの移住セミナー・相談会等開催、中高年齢者向け住宅等の必要性・可能性検討、移住希望者に対する町内でのマッチング支援（仕事、住まい）</p>	<p>【実績】</p> <p>(1) 地域包括ケア充実 ○「生活支援体制整備事業（厚生労働省）」における「協議体」への移行を視野に、地域関係者の定期的な情報共有・連携強化の場づくりに向けた「かみしほろ あすわがミーツーイング」を開催した。（3回、延べ85名参加） ○介護職員初任者研修について、修了者との交流会、上土幌高校事前説明会、職場見学会を実施した。（各1回） ○町内の障がい者NPO法人関係者と学習会や他事例調査に向けて準備を進めた。 ○高齢者世帯を中心に、町内での住み替えに関する調査を実施した。（結果集計中：約1,200件発送、500件回答） ○上土幌町健康ポイント事業は、会員数579名、定期測定会1回、健康ポイントサロン7回等実施した。 ○人材センター（会員34名）により業務を112受注し、売上は、3,673,147円。 ○「生涯活躍かみしほろ塾」として総合講座、専門講座（フットパス）、起業塾を開催し、町民はもとより町外から多数の受講者があった。 ○上土幌起業化支援センター「haretan」を整備し、8月オープンした。 ○移住希望者募集 ○町や関係団体が実施する移住セミナー等に参加して移住希望者募集（2回）、職場体験会（3回）を行った。 【今後の課題】 ○事業を着実に実施するほか、令和2年度以降の交付金事業計画を検討する必要がある。</p>	A	<p>(まちづくり会社委託事業)</p> <p>(1) 地域包括ケアネットワーク （取組内容）地域包括ケア充実に取り組む 24時間365日ケア等の推進、介護人材の養成・確保充実、障がい者グループホーム・就労事業等検討、活動量計等を活用した運動習慣化による町民の健康づくりの促進</p> <p>(2) 生涯活躍（地域貢献）の場の創設 （取組内容）安定した取組みを図り、利用者等の拡大を目指す。 ①人材センター運営 会員、請負業務の増加 ②生涯活躍かみしほろ塾開催 ・総合講座（第Ⅲ期） ・かみしほろ起業塾（起業家育成） ③起業を目指す町民等のワークスペース、物販スペース、カフェスペースの使用促進について検討する。</p> <p>(3) 移住希望者募集 （取組内容）継続した移住者確保のための募集活動等を行う。 移住セミナー・相談会等開催、移住希望者に対する町内でのマッチング支援（仕事、住まい）</p>	企画財政課 保健福祉課

2 上士幌町観光ビジネス創出事業

【事業実施期間 平成31年4月～令和2年3月】

【交付金額 22,110,000円】（事業費 42,220,000円）

事業における重要業績評価指標（KPI）		未達成の場合の要因	
KPI増加分の累計（目標値）	R元上期までの増加分	達成度	
新会社、新交流拠点施設「ナイタイ高原牧場レストハウス」「道の駅」に関わる雇用者数	10人増加	160%	
転入・転出による流入人口	155人増加	340.0%	令和元年上期において10代、30代、60代以上に転出超過が見られ、家族での転入が転入を上回っていることが大きな要因と考えられる。
上士幌町観光入込客数	139,900人増加	57.4%	平成30年度上期は、北海道胆振東部地震、5月から8月の悪天候が大きく影響し入込客数が大幅に減少した。 下期は、紅葉シーズンの好調や、アイスパブルの人気など冬季の入込客数が増加したが、上期の減少が要因となり指標値を大きく下回る結果となった。 ※計画期間目標値 H28末 359,100人 → R元 499,000人（139,900人増） ※観光入込客数実績 H28：359,100人 H29：439,000人（79,900人増） H30：439,400人（400人増・累計80,400人増）

事業概要	実績及び今後の課題	評価	今後の取組内容	担当課等
<p>本年は、新たな交流拠点施設「ナイタイテラス」が供用開始、電力小売販売、旅行商品造成等、観光地域商社として事業に深く関わり事業収入を得ていく。</p> <p>また2020年については新道の駅も供用開始となるため、両施設の運営主体となり事業展開について検討していく。</p> <p>合計【44,220千円】</p> <p>1、観光ビジネス創出業務 【23,980千円】</p> <p>①DMO、観光地域商社事業運営支援コンサルティング（11,580千円） 観光地域商社の事業について毎月の専業、経営コンサルティング</p> <p>②旅行商品造成、体験型観光プログラム造成支援（5,000千円） 商品造成とともにネット販売等の支援</p> <p>③インバウンド顧客受入体制整備支援（3,400千円） 欧州系のお客様をターゲットとした受入体制の整備支援。</p> <p>④体験型観光等人材育成支援（2,000千円） 体験メニューの造成とともに人材育成、人材の発掘を行っている。</p> <p>⑤DMO候補法人広域活動支援（2,000千円） 道内のDMOとの連携をおこなっていただく。</p> <p>2、DMO観光地域商社運営業務 【9,240千円】</p> <p>①観光入り込み、消費額 集計・分析（3,600千円） DMOとして必要なデータ収集を行う。</p> <p>②情報発信事業（HP・SNS等による発信、観光パンフ等戦略的配布、設置）（1,200千円）</p>	<p>【実績】</p> <p>1、観光ビジネス創出業務</p> <p>○平成30年5月、地域全体を巻き込んだ観光の推進と、地域の稼ぐ力から引き出すためのしくみの基盤となる観光地域商社「株式会社karch」が設立され、7月に旅行者代理業登録、10月には小売電気事業者登録を行い平成31年2月より小売電気事業を開始させるなど、観光地域商社としての事業を開始した。</p> <p>令和元年8月、日本版DMO候補法人登録を完了した。町全体を巻き込んだ観光による地域づくりを推進し、地域の稼ぐ力を引き出す仕組みづくりの体制を構築していく。</p> <p>○地域づくり・ものづくりプロジェクト 上士幌町商品開発プロジェクト実行委員会（委員28名）を設立し、新商品開発の検討を行い、10の商品について今後開発を進めていくこととし、H30年度の検討により生まれた10の新商品についてさらに開発を進めるとともに、新たに10商品の開発に向けて検討を進めている。</p> <p>○H30年度に体験型観光プログラムの造成や国内からの顧客によるモニタリングを実施し、この結果をもとに、</p>	A	<p>ODMOを担う観光地域商社がスケジュールどおり平成30年5月に設立され、その役割や事業計画が明確化されたことに伴い、ビジネスモデルの検討・構築の取り組みを行うことに加えて、これまでに検討してきたビジネスモデルを実践し、自立に向けた収益につなげる支援を行っていく。</p> <p>○新たな交流拠点施設「ナイタイテラス」が供用開始、電力小売販売、旅行商品造成等、観光地域商社として事業に深く関わり事業収入を得ていく。また2020年については新道の駅も供用開始となるため、両施設の運営主体となり事業展開について検討していく。</p> <p>○また、観光地域商社として役割を果たすための人材の確保、人材の育成についても併せて行っていく。</p>	<p>観光地域商社 観光地域商社</p>

<p>DMOとして観光地域づくりの支援を行う。</p> <p>③広域連携推進事業 (2,400千円) 近隣町村との広域的な誘客支援体制を確立する。</p> <p>④インバウンド誘客事業 (2,040千円) 受け入れ体制の強化のため、多言語対応について検討実施。</p> <p>3、観光拠点施設誘致宣伝事業 [5,000千円] ①インバウンド、周遊型観光をターゲットとした情報発信 (1,800千円) 観光拠点施設の基盤強化のための情報発信事業 ②多言語化に対応するHP、動画、パンフレット制作 (3,200千円) 観光拠点施設等で発信するHP、動画等の制作</p> <p>4、DMO二次交通調査研究 [6,000千円] ①交通ターミナルと観光拠点施設を結ぶモニターツアーの開催 (4,000千円) 観光拠点施設の交通アクセスについて二次交通モニター調査の実施 ②ガイドスタッフの育成および教育動画制作 (2,000千円) 観光ガイド育成のためのサービス、観光資源情報についての動画制作。</p>	<p>地域の文化等を活かした体験型メニューの商品化、販売を開始した。</p> <p>2、DMO観光地域商社運営業務 DMOとして観光による地域づくりを進めるために必要な左記事業について委託業務により進めている。</p> <p>3、観光拠点施設誘致宣伝事業 令和2年5月の道の駅供用開始に向けて、左記事業について委託業務により進めている。</p> <p>4、DMO二次交通調査研究 交通ターミナルとナイタイテラスを結ぶモニターツアーを造成、販売し、今後の可能性等に向けて調査分析中。</p> <p>○観光ガイド育成のためのサービス、観光資源情報についての動画制作について委託業務により進めている。</p> <p>【課題】 観光地域商社として事業が開始されたが、今後2つの新たな観光拠点施設の運営と、地域の稼ぐちからを引き出すための人材の確保が必要である。</p>
---	--

3 十勝・イノベーション・エコシステム推進事業（広域事業）

【事業実施期間 平成30年4月～平成31年3月】

【交付金額 50,000円】（事業費 100,000円）

事業における重要業績評価指標（KPI）		達成度		未達成の場合の要因	
創業・起業件数	KPI増加分の累計（目標値）	R元上期までの増加分	達成度	目標値は令和2年度末である	
創業・起業支援件数	250件増加	125件	50%	目標値は令和2年度末である	
創業・起業人材育成プログラム修了者数	750件増加	388件	51.7%	目標値は令和2年度末である	
	180人増加	228件	126.6%	目標値は令和2年度末である	

事業概要	実績及び今後の課題	評価	今後の取組内容	担当課等
<p>〇とちか・イノベーション・プログラム （帯広信用金庫・北洋銀行・北海道銀行・帯広市） 地域内外の人材の触発により新たな事業構想を生み出す「とちか・イノベーション・プログラム」を実施する。 ・負担金12,000千円</p> <p>〇トカチ・コネクシオン （公益財団法人とちか財団等） ワンストップ支援システムによる事業段階に応じた適切な人材を紹介できる人的ネットワーク機能を実際に運用し、起業家人材の事業構想から事業創発への事業化支援を行う。併せて創業・起業に至った事業への継続した支援を行う。また、新事業に挑戦する十勝の創造的な人材のためのネットワークイベントを実施する。</p> <p>若年層を対象に、将来起業を目指す意識を醸成し、起業候補者となる人材を育成する。</p> <p>起業家を目指す人材に経営者として必要なスキルの習得と地域産業への理解促進を図る。</p> <p>創業・起業への知識を有し、支援体制の中核を担うことができるコーディネーター人材を配置し、ワンストップ支援体制を整備する。</p> <p>・負担金 26,813千円 ・委託料 2,000千円</p> <p>※交付対象事業費 28,513千円に加えて、寄附金自主財源分 12,300千円も全体事業費に充当。</p>	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十勝・イノベーション・エコシステムの取り組みを通し、将来、十勝の産業界を担っていくことが期待される農業者・商工業者の創業・起業意識の啓発が進んでいる。 ・とちか・イノベーション・プログラムから約400名の起業家集団が形成され、事業構想アイデアを基に、14件が会社設立など、事業化に至った。（30年度実績） ○創業・起業件数 32件 ○創業・起業支援件数 134件 ○創業・起業人材育成プログラム修了者数 89件 <p>※令和元年度上期の実績見込は現時点で記載不可です。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続的に新事業を生み出すとともに、雇用の創出等、地域経済へ寄与する事業へと育てていく必要がある。 	A	<p>・創業・起業のきめ細やかな支援に向け、関係機関等とのネットワークを強化し、起業希望者等の課題やニーズに柔軟に対応できる支援体制を構築する。</p> <p>・人材や事業アイデアの掘り起こしを行うとともに、引き続き事業化支援を進め、創業・起業、事業創発を目指す地域の人材や支援者等が集い、新たなチャレンジに向けた情報交換や勉強会等を行うことができれば、新たな環境づくりを進める。 （交付金事業は令和2年度まで継続予定）</p>	企画財政課

【地方創生拠点整備交付金】

1 上士幌交通ネットワーク交流拠点整備事業

【事業実施期間 平成29年2月～平成30年3月】

【交付金額 74,795,400円】（事業費150,022,800円）

事業における重要業績評価指標（KPI）	KPI増加分の累計（目標値）	R元上期までの増加分	達成度	未達成の場合の要因
中高年齢者移住者数（40歳台以上移住者数）	68人増加	25人増加	36.8%	目標値は令和2年度末である
生活体験住宅利用者数	90人増加	289人増加	321.1%	目標値は令和2年度末である
まちなか拠点の利用者数（ふれあいプラザ、生涯学習センター、スポーツセンター、交通拠点）	27,140人増加	52,999人増加	195.3%	目標値は令和2年度末である

事業概要	成果及び今後の課題	評価	今後の取組内容	担当課等
<p>地方における公共交通機関の充足度は十分とは言えず、自家用車を移動手段とするのが日常的である。しかし、農村地区の高齢者をはじめ、まちなかの高齢者等は自家用車による移動が困難な住民が多く、特に冬期間は外出控えの傾向が強く閉じこもりがちになっている。一方、自動車購入の負担、さらには、冬季間の自動車運転に不安の声があり、首都圏住民が移住を決定する際の一つのハードルとなっている。このため、町内循環バス、民間路線バス、タクシ-、スクー-ルバス、レンタサイクルなどの交通機能のネットワーク化が重要な課題であり、あらゆる交通手段の結節点となる拠点整備を行うことで課題解決を図り、アクティブな生活を送ることができま-ちをめざす。</p> <p>拠点は単なる結節点だけではなく、町内で行われる各種学習活動や健康増進活動などの行事、商店街等で行われるイベントなどの多様な情報を提供し、来訪すればあらゆる活動の場-に容易に移動できる機能を持たせる。</p> <p>【実施設計委託】 12,917千円 【建物本体工事】 132,840千円 【建設工事監理委託】 4,266千円 【合計】 150,023千円 ※うち対象外（備品） 432千円</p>	<p>【成果】 平成30年4月20日より供用を開始している。 営業所等案内窓口では、町内に営業所がある路線バス事業者が券売、バス案内だけでなく、観光案内業務等の行政サービスの一部も担う。 4月1日より、路線バス、町内循環バス、4月20日から都市間バス（帯広-旭川）の停留所として利用されている。また、5月からはスクー-ルバスの乗車も行なっている。 平成31年4月27日より、窓口にてレンタサイクルの貸出を開始している。 幅広い世代の施設利用が見られた。また、バス駐車スペースへの外部車両の駐車など、施設運営における細かな課題に対し、都度適切に対応した。</p> <p>【課題】 多様な課題に対応し、利用者にとって安全・安心な施設を維持する。 近隣公共施設や商店街への誘導などソフト面での充実を更に図る必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>・今後整備予定の道の駅との相互連携に向けた検討 ・他施設や商店街等への誘導に向けた取組 ・交通結節点としての交通機能検討 ・交流スペースとしての施設利用の充実化</p>	<p>企画財政課</p>

2 生涯活躍のまち 上土幌シェアオフィス整備計画

【事業実施期間 平成31年4月～令和2年3月】

【交付金額 47,356,000円】（事業費23,678,000円）

事業における重要業績評価指標 (KPI)		未達成の場合の要因	
事業概要	KPI 増加分の累計 (目標値)	達成度	
シェアオフィス利用者数	1,200人増加	%	施設整備中
シェアオフィス利用起業数	12社増加	%	施設整備中
シェアオフィス利用者の移住者数	5人増加	%	施設整備中

事業概要	成果及び今後の課題	評価	今後の取組内容	担当課等
<p>上土幌シェアオフィス整備 延床面積 178.0㎡</p> <p>【計画内容】</p> <p>①町外企業が1日単位で最長1ヵ月まで事前申込により専用することが可能なプライベート空間のオフィスを整備。(1F:9.3㎡)</p> <p>②町外企業や個人事業主がいつでも利用できる共有のワークスペース (1F:41.0㎡、2F:44.1㎡)</p> <p>③利用者が空き状況により使用できる会議室。1人でWEB会議にも利用することも可能。(1F:21.7㎡)</p> <p>④その他 (61.9㎡)</p> <p>玄関、階段、倉庫×2、喫茶コーナー、給湯室、男子トイレ、女子トイレ</p>	<p>【成果】</p> <p>実施設計 H31. 4. 11 契約 R 1. 7. 12 完了</p> <p>建築工事 R 1. 9. 5 契約</p> <p>予算精算時からの公共単価の上昇等により、1F会議室のスペース確保が困難となったため、2Fの共有ワークスペースを仕切ることにより会議室を兼ね、WEB会議用には電話ブースを設置することとした。</p>	<p>A</p>	<p>・起業家支援スペース「hareta」など、生涯活躍のまち（まちづくり会社）の取り組みとの連携</p> <p>・関係人口（ふるさと納税のオンラインサロン等）プロジェクトとの連携</p> <p>・町が入居するシェアオフィス「WeWork」との連携</p> <p>・建設場所が隣接する町農業技術センターとの連携を検討</p> <p>・施設の予約システムや移動方法など Maas プロジェクトとの連携を検討</p>	企画財政課

3 農業者所得向上のための加工販売拠点整備計画
 【事業実施期間 平成31年4月～令和2年3月】

【交付金額 1,183,000,000円】（事業費591,591,000円）

事業における重要業績評価指標（KPI）	R元上期までの増加分	達成度	未達成の場合の要因
農畜産物販売促進施設における販売額	KPI増加分の累計（目標値） 74,000千円増加 人増加	%	施設建設中
本施設にて商品販売を行うために6次産業に取り組む 農業者数	8人増加 人増加	%	現在、商品開発プロジェクト実行委員会により検討作業中。
道の駅来場者数	650,000人増加 人増加	%	施設建設中

事業概要	成果及び今後の課題	評価	今後の取組内容	担当課等
<p>「道の駅」建設 本施設では、農業者所得向上を図るための農畜産物販売所のほか、「都市と農村の交流」を積極的に行うための地域連携機能や「食と農」の連携を図るためのカフェ・レストランやテイクアウトショップの整備を行う。また、来訪客へのサービス向上を図るための情報発信機能など、複合施設として一体的な事業効果を発揮することを目指す。</p> <p>延床面積 1,540㎡ （主な計画） 共用部 338㎡ [イノカトモト・キッズ・ス・風除室] 24時間トイレ 127㎡ [男子トイレ・女子トイレ・多目的トイレ] 情報発信機能 85㎡ [道路情報・観光情報] 農畜産物販売所 269㎡ 地域連携機能 169㎡ [移住・ふるさと納税窓口・観光案内] アイワトジョブ 115㎡ ふるさと展示コーナー 16㎡ 管理部門 160㎡ [事務所・機械室・ストックヤード等] カフェ・レストラン 199㎡</p>	<p>【成果】 今年度予定どおり着工中。令和2年5月28日共用開始に向けて準備を進めている。</p> <p>【課題】 ・観光地域商社による安定的な雇用の確保と運営が必要である。 ・魅力ある施設運営につなげるためにも農畜産の6次産業化に取り組む事業者の育成及び支援が必要である。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 施設スタッフの人確保 新商品開発の推進 6次産業化に取り組む事業者の育成及び支援 	商工観光課

